

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

2. 生涯学習・文化施設

【公民館】

(1) 概要

本市には 66 の市立公民館・分室及び分館があり、地域における社会教育や生涯学習の拠点として、多様化、高度化する市民の学習意欲に応えるとともに、学習の成果を地域づくり、人づくりに活かすための社会教育活動の場を提供しています。

これら市立公民館の延床面積は約 5.0 万㎡となっています。

このほか、市内にはより身近な地域に設置されている地域公民館が 504 館あります。地域住民自らの手によって自主的・主体的に運営され、地域住民の学習活動や住民相互の親睦活動などの拠点となっています。

市立公民館一覧

	施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(㎡)	階層	主たる構造	利用者数(人)
1	城山公民館本館	第二	単独	直営	1970年3月	1,495	3	RC造	35,522
2	城山公民館別館	第二	単独	直営	1967年4月	1,723	4	RC造	7,470
3	中部公民館本館	第三	単独	直営	1975年3月	956	4	S造	25,144
4	芹田公民館	芹田	単独	直営	1972年3月	861	2	RC造	50,339
5	古牧公民館	古牧	複合	直営	1987年12月	768	2	S造	30,452
6	三輪公民館新館	三輪	単独	直営	1999年2月	999	3	SRC造	32,248
7	三輪公民館旧館	三輪	単独	直営	1986年3月	380	2	S造	—
8	吉田公民館	吉田	複合	直営	1997年11月	1,815	13・B1	SRC造	59,628
9	古里公民館	古里	複合	直営	2002年3月	1,366	1	S造	33,386
10	柳原公民館	柳原	複合	直営	2011年3月	801	1	S造	29,164
11	浅川公民館	浅川	複合	直営	2001年8月	648	2	S造	35,529
12	浅川公民館分室	浅川	単独	直営	1977年9月	868	2	S造	15,853
13	大豆島公民館	大豆島	複合	直営	2013年3月	1,045	1	S造	28,445
14	朝陽公民館	朝陽	単独	直営	1972年3月	867	2	RC造	18,430
15	朝陽公民館分室	朝陽	複合	直営	1987年9月	238	2	S造	12,429
16	若槻公民館	若槻	複合	直営	1972年11月	1,267	2	RC造	66,830
17	長沼公民館	長沼	複合	直営	1983年2月	723	1	S造	11,947
18	安茂里公民館	安茂里	複合	直営	1991年2月	1,065	2	SRC造	47,671
19	安茂里公民館小市分室	安茂里	単独	直営	1978年3月	288	2	RC造	4,837
20	小田切公民館	小田切	複合	直営	1996年10月	1,086	2	S造	5,844
21	芋井公民館	芋井	単独	直営	1990年3月	636	2	S造	3,151
22	篠ノ井公民館	篠ノ井	複合	直営	1981年1月	1,431	3	S造	46,104
23	松代公民館	松代	単独	直営	1971年2月	1,166	2	RC造	36,743
24	若穂公民館	若穂	単独	直営	1971年3月	928	2	RC造	29,729
25	川中島町公民館	川中島	単独	直営	2013年10月予定	1,244	2	RC造	—

※ 川中島町公民館は、平成 24 年度解体～建築中です。

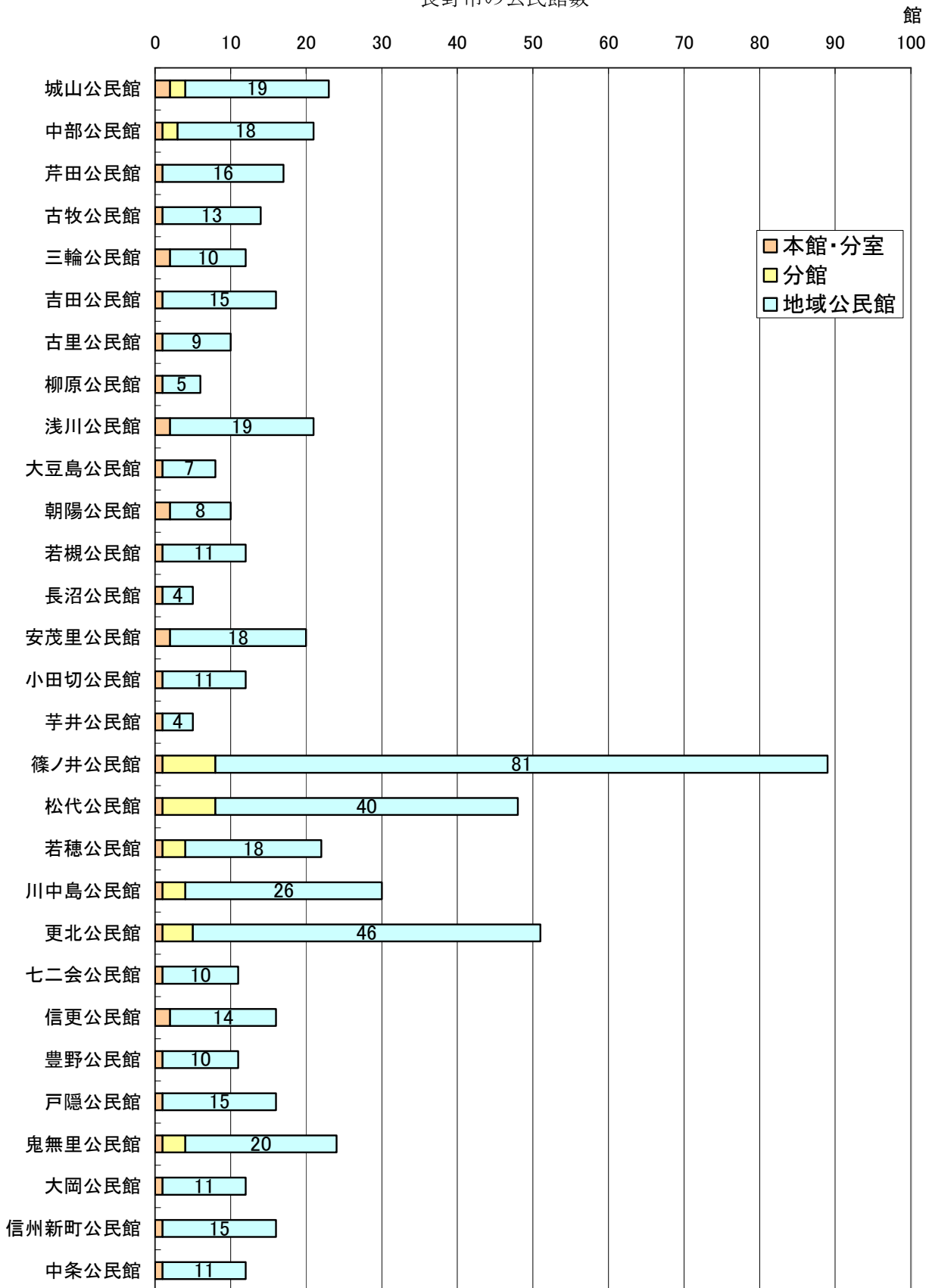
第5章 施設分類別の状況
2. 生涯学習・文化施設

	施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	利用者数(人)
26	更北公民館	更北	複合	直営	1993年8月	2,826	3	RC造	76,688
27	七二会公民館	七二会	単独	直営	1990年3月	606	2	S造	5,181
28	信更公民館	信更	単独	直営	2008年10月	680	2	S造	3,430
29	信更公民館高野分室	信更	複合	直営	1979年1月	553	2	S造	1,339
30	豊野公民館	豊野	単独	直営	1972年3月	1,048	2	RC造	16,373
31	戸隠公民館	戸隠	複合	直営	1999年10月	1,701	2・B1	RC造	5,778
32	鬼無里公民館	鬼無里	単独	直営	1974年4月	1,155	3	RC造	2,771
33	大岡公民館	大岡	単独	直営	1999年3月	998	2	RC造	11,163
34	信州新町公民館	信州新町	複合	直営	1993年3月	851	3・B1	RC造	5,800
35	中条公民館	中条	単独	直営	1979年12月	1,805	2・B1	SRC造	10,294
36	城山公民館第一地区分館	第一	単独	直営	1981年3月	479	3・B1	S造	7,668
37	城山公民館第二地区分館	第二	単独	直営	1991年3月	806	2	S造	13,233
38	中部公民館第四地区分館	第四	単独	直営	1979年3月	484	4	S造	2,347
39	中部公民館第五地区分館	第五	単独	直営	1977年10月	396	2	W造	4,679
40	篠ノ井公民館中央分館	篠ノ井	複合	直営	(民間ビル間借)	357		—	8,972
41	篠ノ井公民館東福寺分館	篠ノ井	複合	直営	1977年12月	539	2	S造	2,859
42	篠ノ井公民館川柳分館	篠ノ井	単独	直営	2003年3月	450	1	S造	9,891
43	篠ノ井公民館共和分館	篠ノ井	単独	直営	1982年3月	415	1	S造	6,644
44	篠ノ井公民館信里分館	篠ノ井	複合	直営	1972年5月	347	2	RC造	3,272
45	篠ノ井公民館西寺尾分館	篠ノ井	単独	直営	1980年3月	645	1	W造	9,755
46	篠ノ井公民館塩崎分館	篠ノ井	単独	直営	2011年3月	483	1	S造	4,950
47	松代公民館松代分館	松代	複合	直営	1988年9月	297	2	S造	3,966
48	松代公民館清野分館	松代	単独	直営	1989年4月	269	2	S造	979
49	松代公民館西条分館	松代	複合	直営	1978年6月	267	2	S造	1,931
50	松代公民館西条分館分室	松代	複合	直営	(財産区所有)	252		—	1,559
51	松代公民館豊栄分館	松代	複合	直営	1978年10月	252	2	S造	3,463
52	松代公民館東条分館	松代	単独	直営	2000年3月	471	1	W造	10,194
53	松代公民館寺尾分館	松代	単独	直営	1989年3月	336	2	S造	2,533
54	松代公民館西寺尾分館	松代	単独	直営	2001年3月	340	2	S造	2,697
55	若穂公民館綿内分館	若穂	複合	直営	1981年6月	524	2	S造	3,831
56	若穂公民館川田分館	若穂	複合	直営	1981年9月	362	2	S造	2,058
57	若穂公民館保科分館	若穂	複合	直営	1969年3月	459	3	RC造	2,840
58	川中島公民館川中島分館	川中島	複合	直営	1980年12月	348	2	RC造	13,538
59	川中島公民館中津分館	川中島	複合	直営	1987年12月	456	2	S造	22,838
60	川中島公民館御厨分館	川中島	複合	直営	1973年5月	386	2	S造	8,454
61	更北公民館青木島分館	更北	単独	直営	1986年12月	259	2	S造	6,237
62	更北公民館稲里分館	更北	単独	直営	1997年10月	599	2	S造	20,083
63	更北公民館小島田分館	更北	単独	直営	2005年3月	366	1	RC造	8,291
64	更北公民館真島分館	更北	単独	直営	1982年3月	703	2	S造	5,250
65	鬼無里公民館上里分館	鬼無里	単独	直営	1978年10月	215	1	S造	1,030
66	鬼無里公民館両京分館	鬼無里	単独	直営	1978年9月	214	1	S造	380
	合計					50,077			1,002,134

第5章 施設分類別の状況

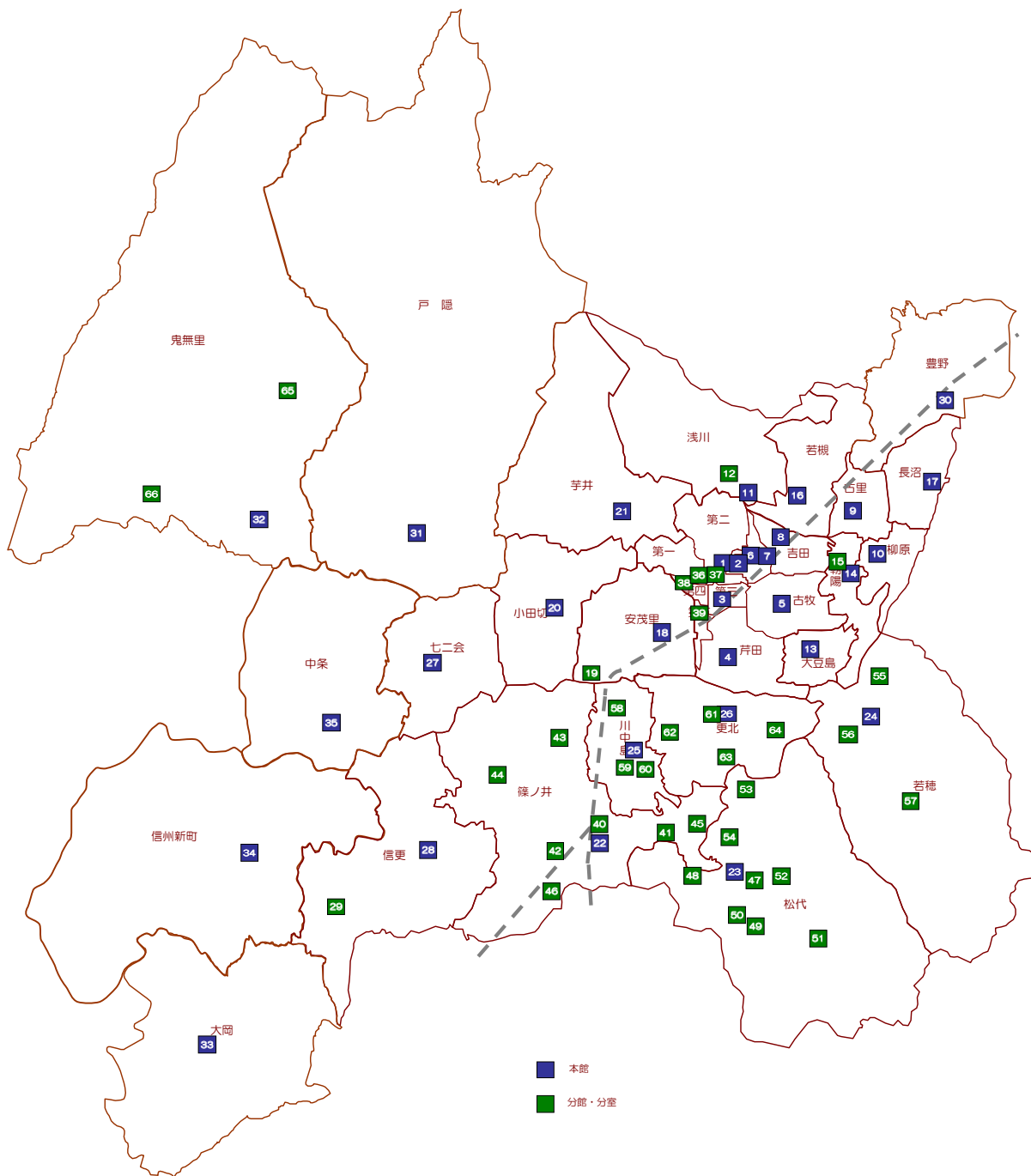
2. 生涯学習・文化施設

長野市の公民館数



※ 地域公民館は、各地区が所有し、管理運営を行っている施設で、市有施設ではありません。

市立公民館の配置状況



※ 図表の番号は、市立公民館一覧の番号と対応しています。

第5章 施設分類別の状況

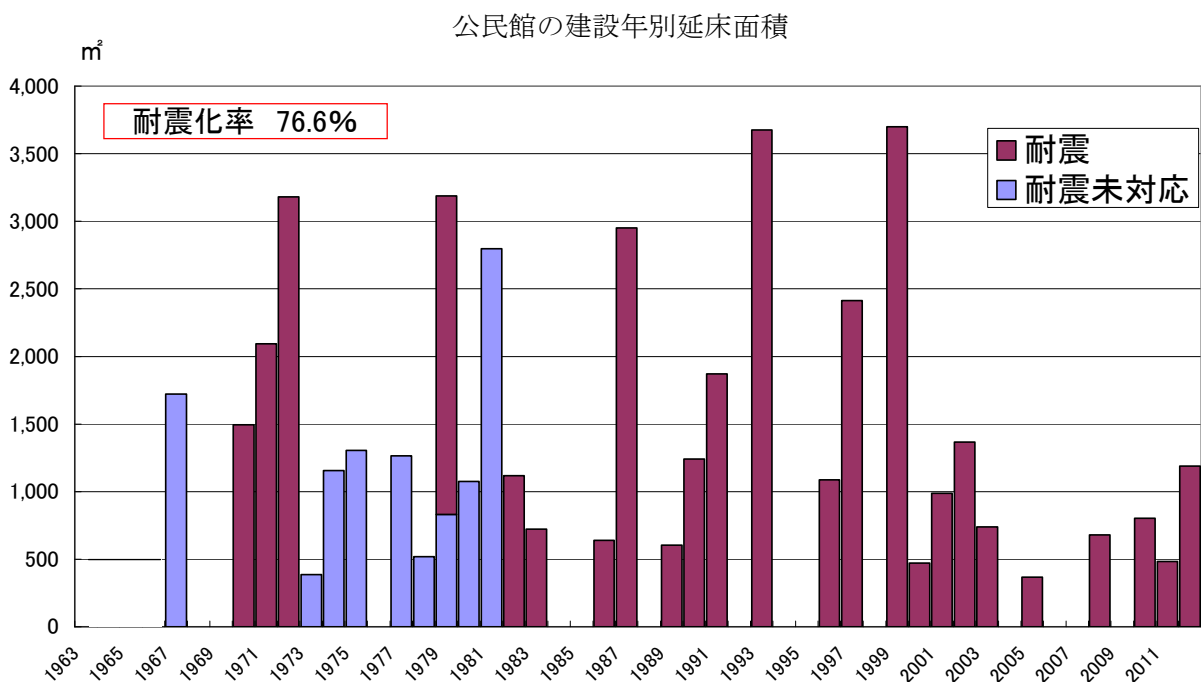
2. 生涯学習・文化施設

(2) 建物の状況

建設年別の延床面積のグラフを見ると、城山公民館別館の1967年(昭和42年)が最も古く、築46年が経過し、若穂公民館保科分館の築44年、篠ノ井公民館信里分館の築41年と続いています。

延床面積約5.0万㎡のうち、築30年以上経過している建物は45%の約2.2万㎡となっており、今後は、建物の老朽化対策が課題になります。

公民館の耐震化は、これまでも計画的に順次対応しており、現在、耐震化率は76.6%となっています。



(3) 施設の利用状況

公民館には、各種講座を学ぶ場となる学習室、講座で学んだ成果の発表の場となるホール、スポーツや健康に係る講座を学ぶ場となる体育館、調理室や工作室などの機能があります。

それぞれの機能の利用状況が把握できる施設について、機能別の利用状況を見ると、学習室については、稼働率 30%以上の施設が3分の1、10%に満たない施設が3分の1となっており、平均稼働率は 24%となっています。

ホールは、8館のうち4館が稼働率 30%以上となっています。

体育館は、松代公民館、更北公民館、若槻公民館が稼働率 80%以上となっており、非常に高い稼働率となっています。

調理室や工作室などは全体的に稼働率が低く、平均稼働率も9%となっています。

平成 22 年度のまちづくりアンケート結果では、生涯学習活動の主な方法について、「本やインターネット、テレビ、ラジオの講座を利用する(35.1%)」に続き、「公民館や生涯学習センターを利用する(32.7%)」となっています。これは、40歳代以下では逆転し、20歳代では、「本やインターネット、テレビ、ラジオの講座を利用する(51.8%)」に加え、「民間のスポーツクラブやスポーツ施設を利用する(21.1%)」、「個人で先生から習う(16.5%)」が高く、「公民館や生涯学習センターを利用する」はわずか 13.5%となり、年齢が若くなるにつれ、減る傾向にあることが分かります。

※ 稼働率 = 1年間に利用された件数 / 1年間に利用できる最大件数 (部屋数 × コマ数 (午前・午後などの時間帯区分) × 年間開館日数)

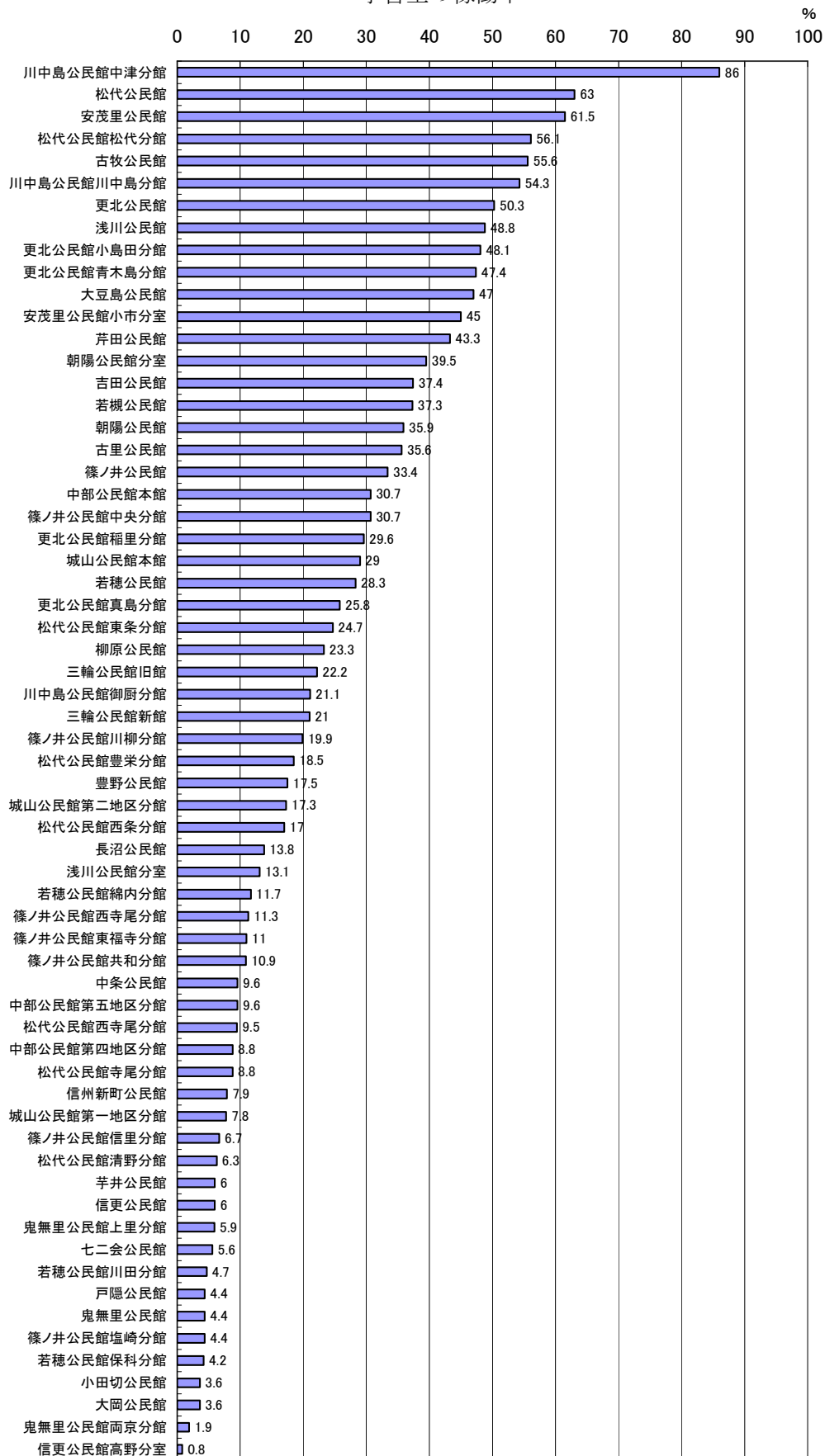


三輪公民館

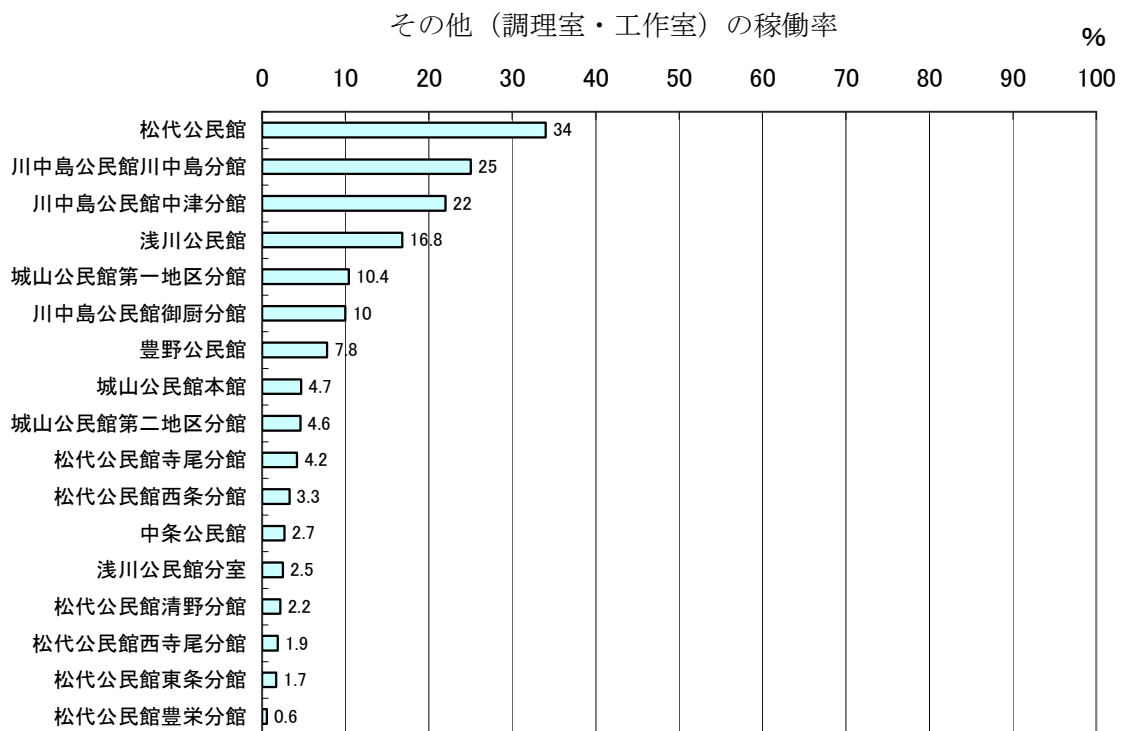
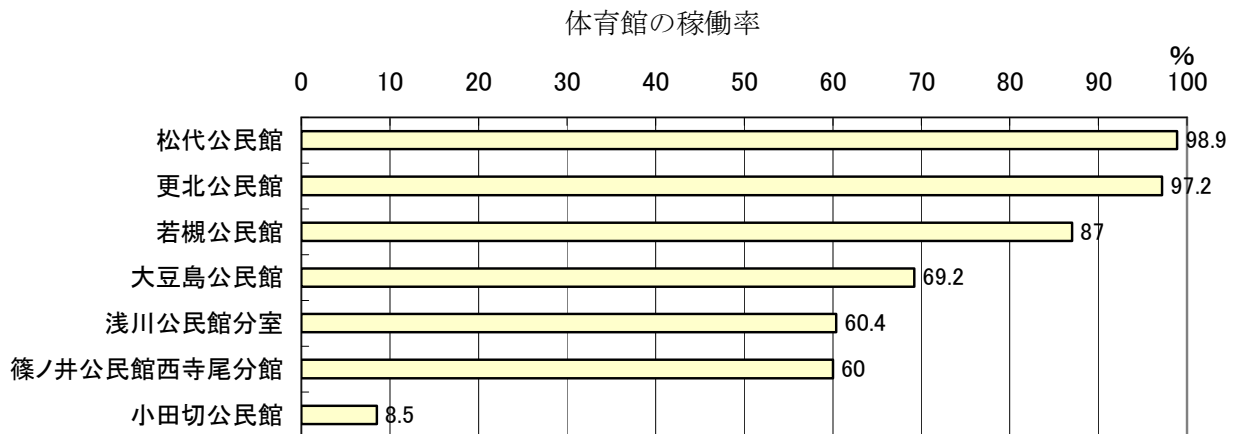
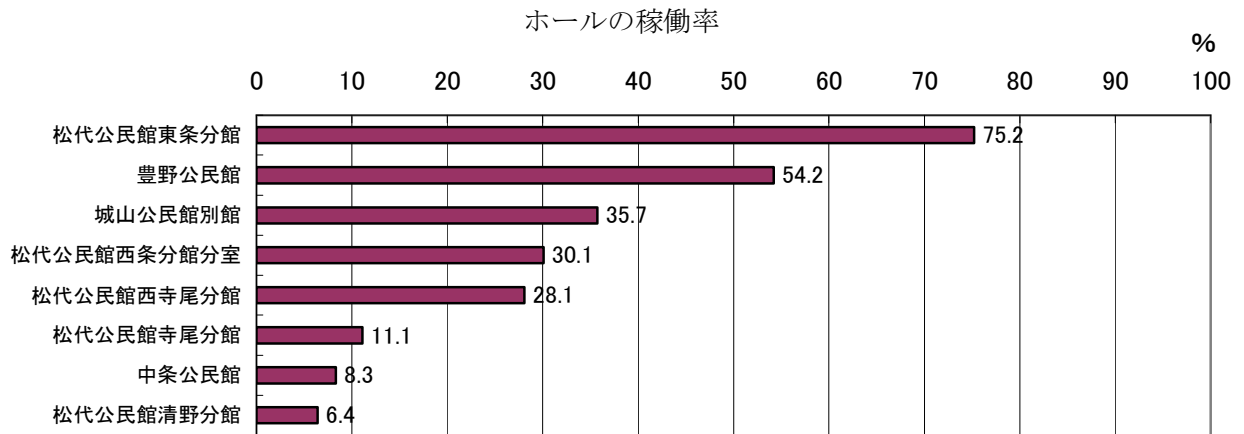
第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

学習室の稼働率



第5章 施設分類別の状況
2. 生涯学習・文化施設



※ それぞれの機能の利用状況が把握できる施設のみ、稼働率を出しています。

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

(4) コストの状況

① 概要

平成 24 年度の公民館・分室及び分館の光熱水費や建物管理委託料などの施設維持管理費は約 2.6 億円で、事業運営費は約 2.2 億円となっています。

また、建物の減価償却費を含めたトータルコストは約 6.9 億円となっています。

公民館のコスト

(金額単位：千円)

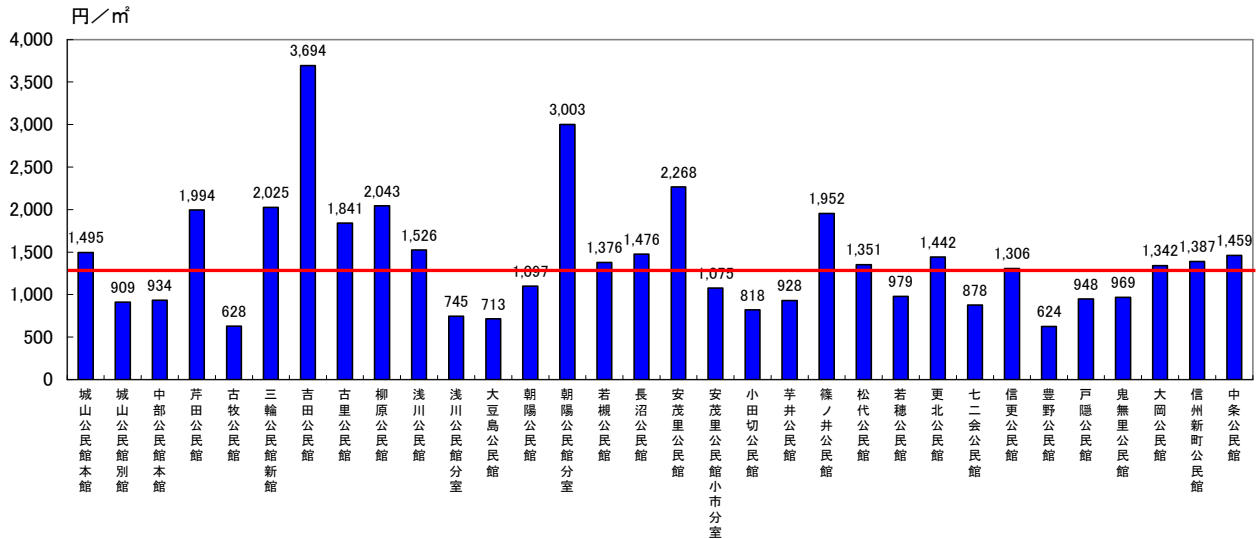
I 現金収支を伴うもの		施設分類名	公民館
		施設数	66
【コストの部】		延床面積(m ²)	50,077
施設維持管理費	修繕費		5,784
	工事請負費		8,606
	光熱水費		61,712
	建物管理委託料		27,273
	人件費(概算)		131,430
	その他の経費		23,242
	施設維持管理費 計		258,047
事業運営費	人件費(概算)		198,750
	業務委託料		2,459
	その他物件費等		17,363
	事業運営費 計		218,572
現金収支を伴うコスト計 ①			476,619
【収益の部】			
利用料金等	市		3,927
	指定管理者		0
収益計 ②			3,927
II 現金収支を伴わないもの			
【コストの部】			
減価償却費 ③			216,435
トータルコスト(①+③) ④			693,045
収支差額(④-②)			689,127

② 光熱水費の状況

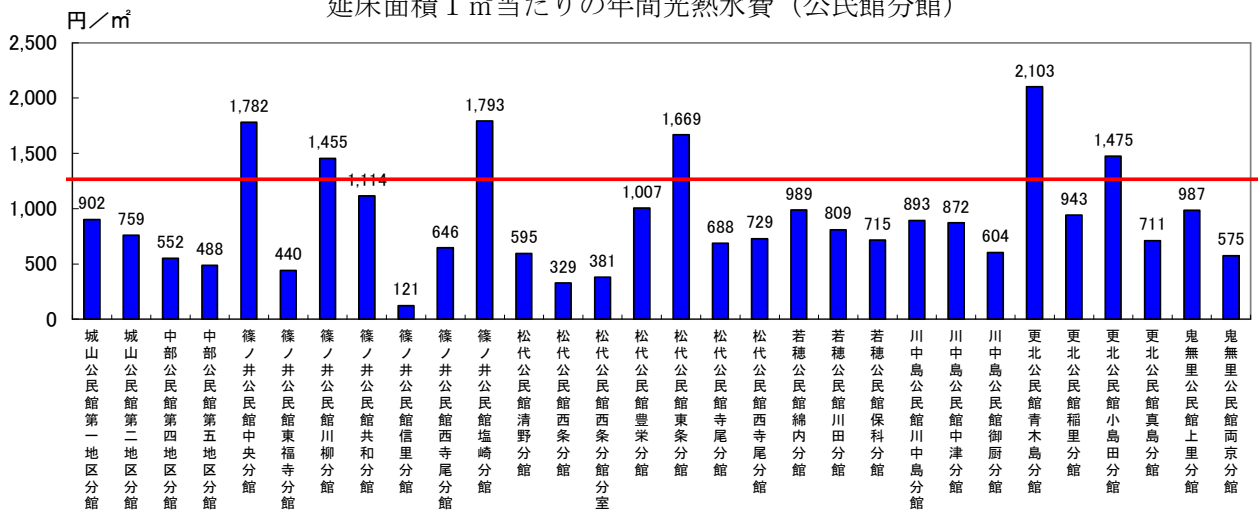
維持管理費のうち、延床面積1㎡当たりの年間光熱水費の平均は 1,234 円/㎡となっています。

平均を大きく上回る施設については、今後、その要因を調査する必要があります。

延床面積1㎡当たりの年間光熱水費（公民館本館・分室）



延床面積1㎡当たりの年間光熱水費（公民館分館）



第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

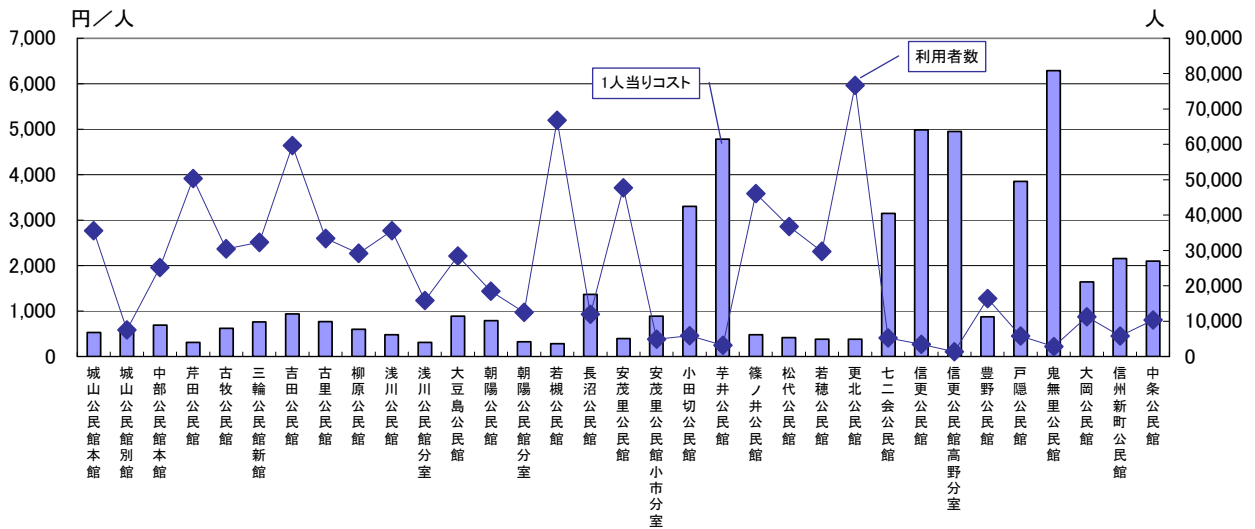
③ 利用者1人当たりのコスト

公民館の年間利用者数は約 100 万人で、1館当たり約 15,000 人です。

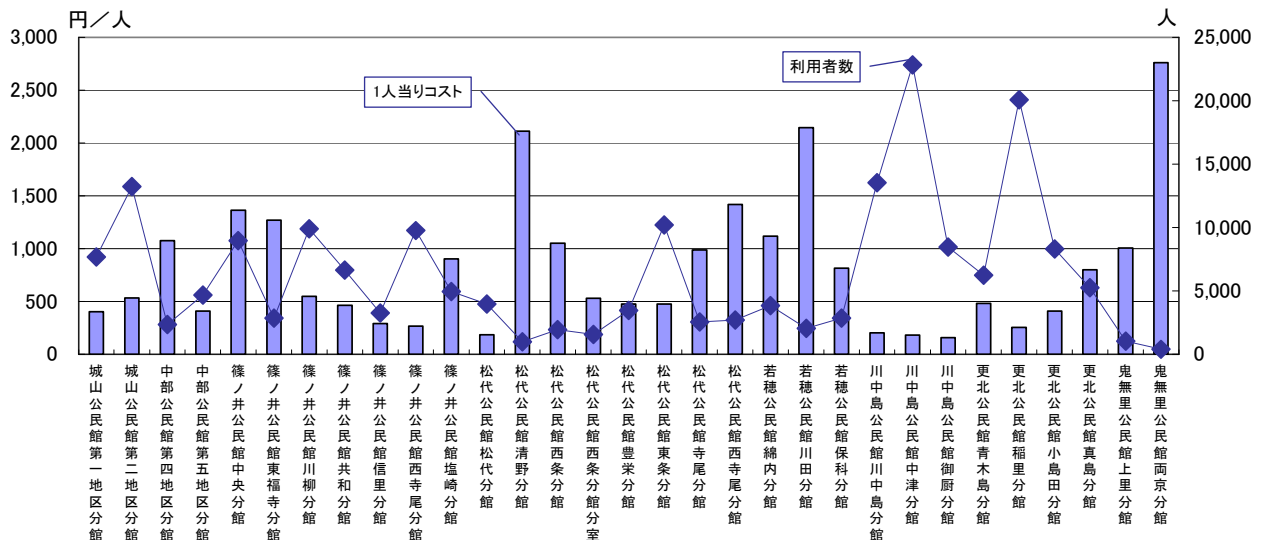
利用者1人当たりのコストの平均は約 700 円／人となっています。

公民館別に見ると、中山間地域の公民館が高い傾向にあり、鬼無里公民館、信更公民館、信更公民館高野分室、芋井公民館は1人当たりのコストが 4,000 円／人以上となっています。

利用者1人当たりの年間トータルコスト（公民館本館・分室）



利用者1人当たりの年間トータルコスト（公民館分館）



(5) まとめ

本市には66の市立公民館・分室及び分館がありますが、これは、人口・面積規模が類似している都市と比較しても多くなっています。(P28 参照)

建物の状況は、築30年以上経過しているものが公民館全体の4割強です。

利用者1人当たりのコストの平均は約700円/人となっていますが、中山間地域の公民館には、1人当たりのコストが4,000円以上となっている施設もあります。

それぞれの機能別の利用状況を見ると、体育館の稼働率が高く、調理室や工作室の稼働率が低くなっています。

公民館の利用状況は、人口密度に加え、地域公民館の配置状況からか、中山間地域の利用状況が低い傾向になっています。

また、平成22年度のまちづくりアンケート結果から、年齢が若くなるにつれ、生涯学習活動の場を民間に求める傾向が強くなっています。

こうした現状を踏まえ、社会教育・生涯学習の場としての市立公民館の役割、事業内容の官と民の住み分けも考慮し、施設の更新に当たっては、安易に従前の規模を維持するのではなく、適正な規模、必要な施設、設備について検討する必要があります。

なお、同種の地区集会所や人権同和教育集会所との役割分担などにも考慮する必要があります。



鬼無里公民館両京分館

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

【集会所】

(1) 概要

集会所には、市民に集う場所を提供し、福利厚生を増進することを目的とした地区集会所、人権啓発の住民交流の拠点となる隣保館や人権同和教育集会所があります。

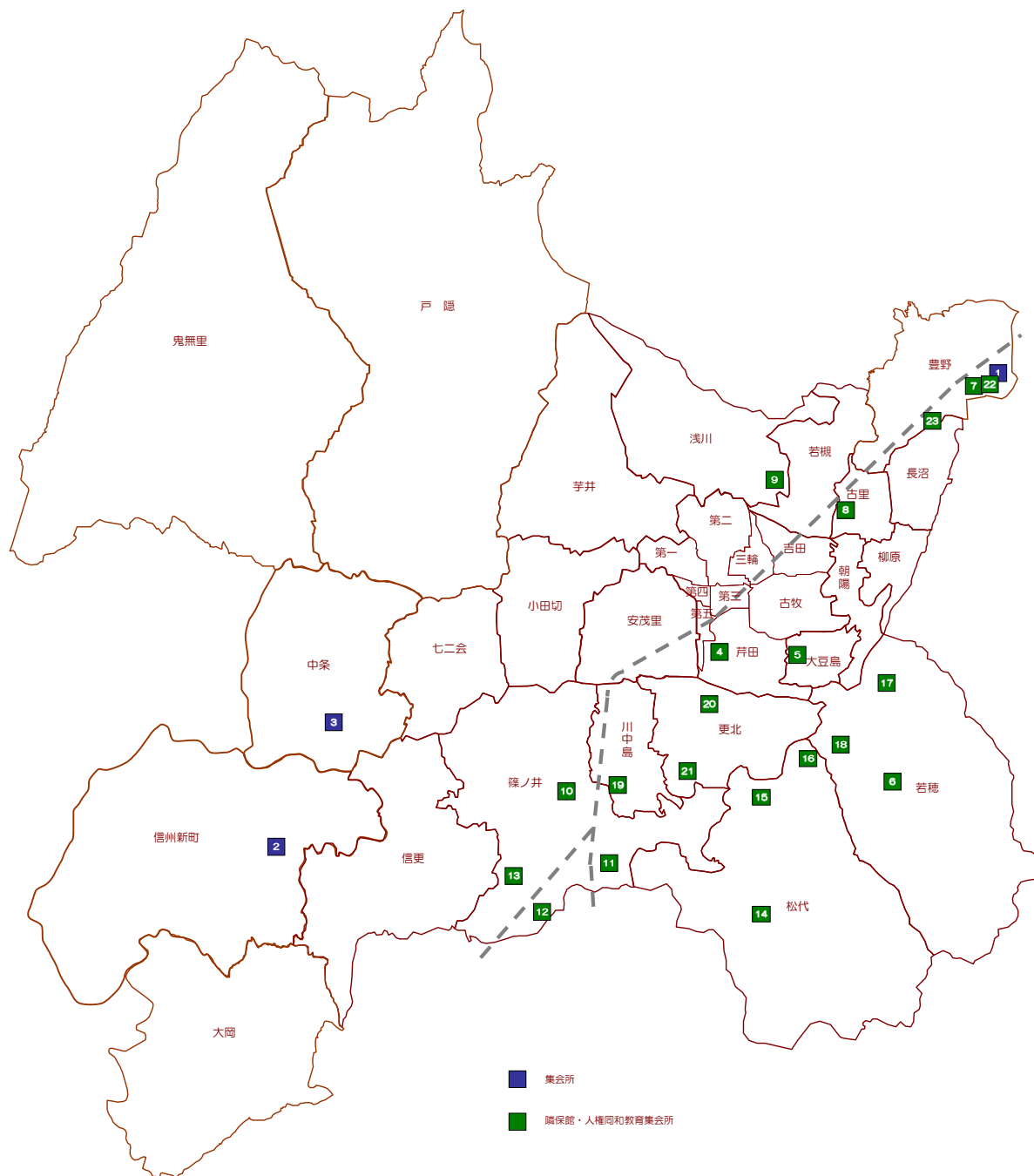
なお、隣保館は社会福祉法に基づく第二種社会福祉事業を行う社会福祉施設として位置付けられた施設です。

これらの施設は 23 館設置しており、延床面積は 6,078 m²となっています。

集会所一覧

	施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	利用者数(人)
1	豊野東部地区集会所	豊野	単独	指定	2000年3月	387	2	S造	2,104
2	信州新町水防会館	信州新町	複合	指定	1994年3月	594	2	S造	4,488
3	中条会館	中条	単独	直営	1972年1月	555	2	W造	6,569
4	中央隣保館	芹田	単独	直営	1980年3月	1,607	3	RC造	29,460
5	大豆島隣保館	大豆島	単独	直営	1975年12月	305	2	RC造	3,014
6	若穂隣保館	若穂	単独	直営	1974年3月	248	2	RC造	2,365
7	豊野隣保館	豊野	単独	直営	1991年3月	320	2	RC造	3,619
8	上駒沢人権同和教育集会所	古里	単独	指定	1973年3月	166	1	W造	2,698
9	浅川西条人権同和教育集会所	浅川	単独	指定	1977年3月	127	1	W造	2,350
10	篠ノ井中央人権同和教育集会所	篠ノ井	単独	指定	1985年3月	132	1	W造	341
11	上町人権同和教育集会所	篠ノ井	単独	指定	1986年12月	118	1	W造	1,996
12	篠ノ井人権同和教育集会所	篠ノ井	単独	直営	1979年3月	150	1	W造	337
13	上石川人権同和教育集会所	篠ノ井	単独	指定	1985年3月	101	1	W造	132
14	松代人権同和教育集会所	松代	単独	指定	1979年3月	132	1	W造	923
15	金井山人権同和教育集会所	松代	単独	指定	1983年4月	100	1	W造	288
16	大室人権同和教育集会所	松代	単独	直営	1982年3月	132	1	W造	467
17	綿内人権同和教育集会所	若穂	単独	直営	1980年3月	100	2	W造	260
18	町川田人権同和教育集会所	若穂	単独	指定	1978年3月	115	1	W造	625
19	川中島人権同和教育集会所	川中島	単独	指定	1978年3月	174	1	W造	1,747
20	綱島人権同和教育集会所	更北	単独	直営	1978年3月	103	1	W造	1,281
21	田牧人権同和教育集会所	更北	単独	指定	1986年3月	103	1	W造	761
22	浅野人権同和教育集会所	豊野	単独	指定	1973年3月	136	2	W造	207
23	豊野人権同和教育集会所	豊野	単独	指定	1976年3月	172	2	W造	719
	合計					6,078			66,751

集会所の配置状況



※ 図表の番号は、集会所一覧の番号と対応しています。

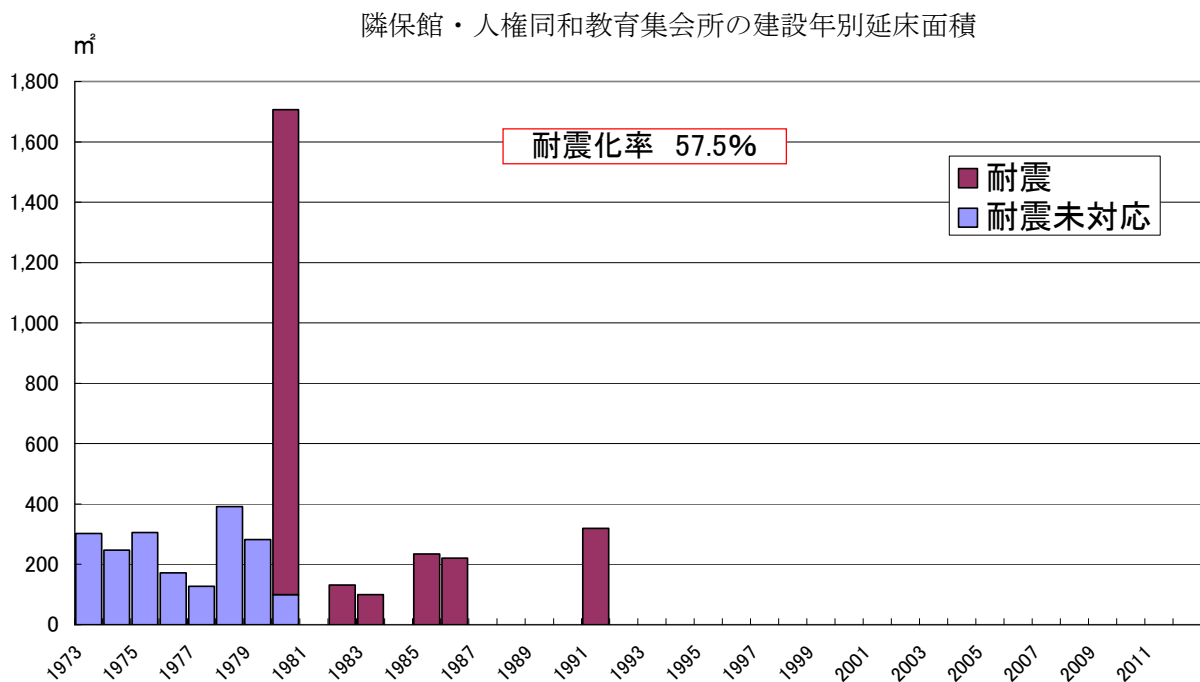
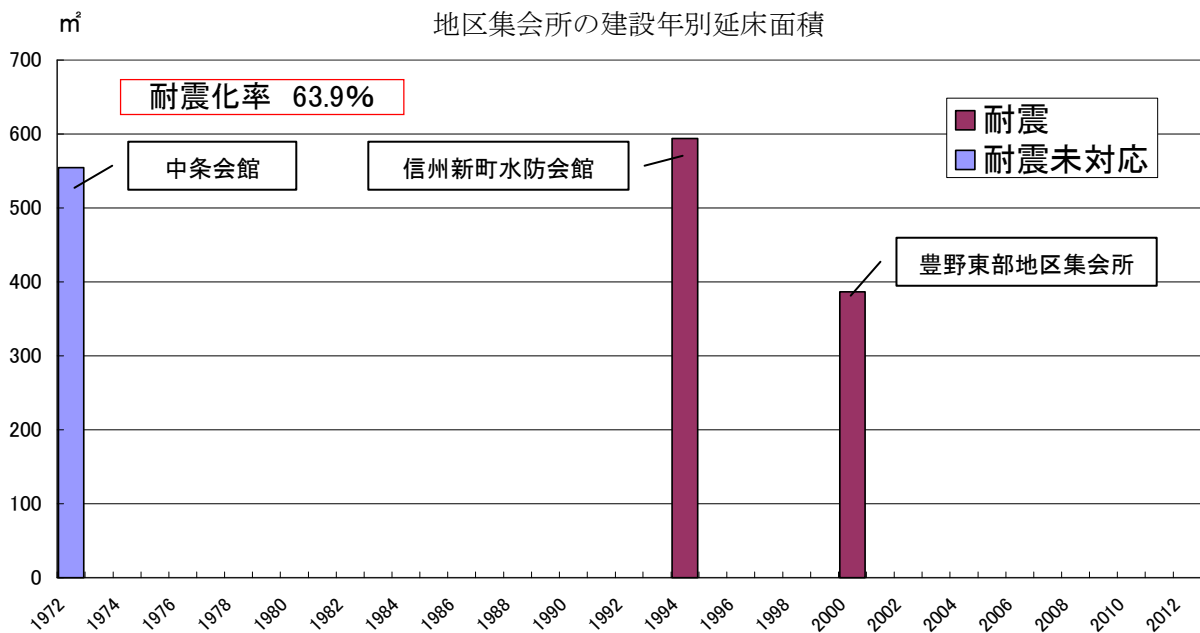
第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

(2) 建物の状況

建設年別の延床面積のグラフを見ると、地区集会所3施設の延床面積は 1,536 m²で、1972年(昭和47年)に建設された中条会館が築30年以上経過し、耐震未対応となっています。

隣保館・人権同和教育集会所の延床面積は 4,542 m²で、そのうち 80.7%の建物が築30年以上経過しています。

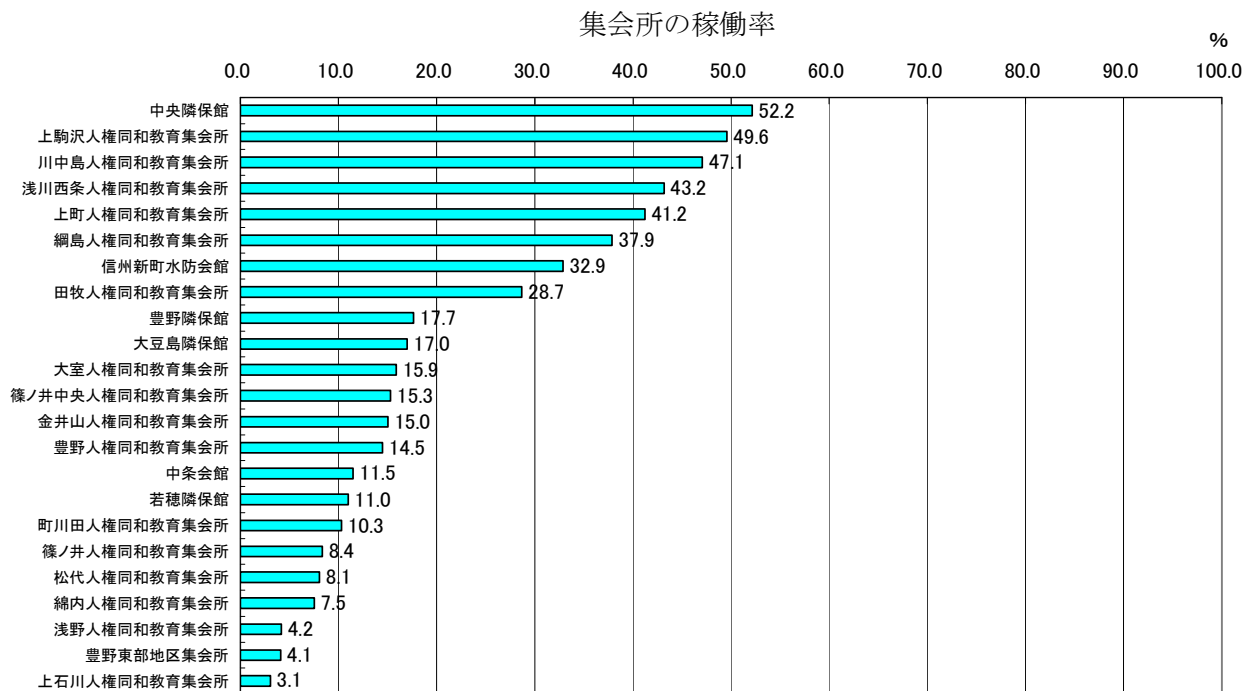


(3) 施設の利用状況

地区集会所、隣保館・人権同和教育集会所は、大小の会議室からなっており、年間約6.7万人が利用していますが、利用者数は、年々減少傾向にあります。

稼働率が30%以上の施設は7施設で、平均稼働率は21.6%となっています。

※ 稼働率＝1年間に利用された件数／1年間に利用できる最大件数（部屋数×コマ数（午前・午後などの時間帯区分）×年間開館日数）



豊野隣保館

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

(4) コストの状況

① 概要

平成 24 年度の集会所の光熱水費や建物管理委託料などの施設維持管理費は約 1,500 万円で、事業運営費は約 2,400 万円となっています。

また、人件費や建物の減価償却費を含めたトータルコストは約 5,100 万円となっています。

集会所のコスト

(金額単位：千円)

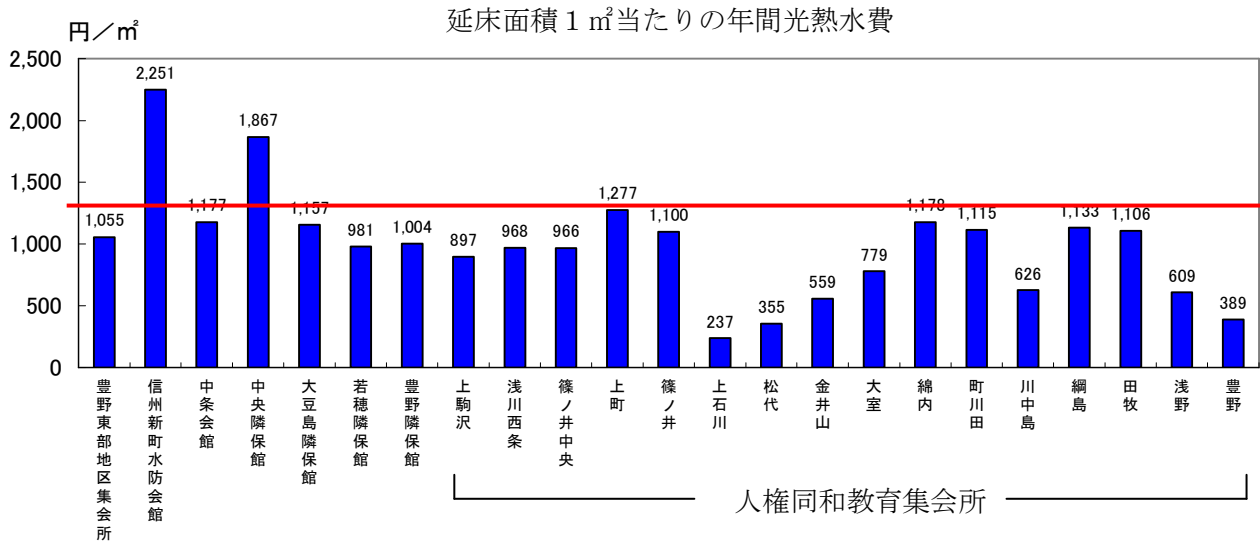
I 現金収支を伴うもの		施設分類名	集会所
		施設数	23
【コストの部】		延床面積(m ²)	6,078
施設維持管理費	修繕費		496
	工事請負費		2,222
	光熱水費		7,996
	建物管理委託料		4,110
	人件費(概算)		0
	その他の経費		110
	施設維持管理費 計		
事業運営費	人件費(概算)		18,750
	業務委託料		150
	その他物件費等		5,341
	事業運営費 計		
現金収支を伴うコスト計 ①			39,175
【収益の部】			
利用料金等	市		15,204
	指定管理者		417
収益計 ②			15,621
II 現金収支を伴わないもの			
【コストの部】			
減価償却費 ③			11,920
トータルコスト(①+③) ④			51,095
収支差額(④-②)			35,474

※ 市の収入のうち、約 13,000 千円は、隣保館の貸館収入です。

※ 指定管理者収入は水防会館の収入です。

② 光熱水費の状況

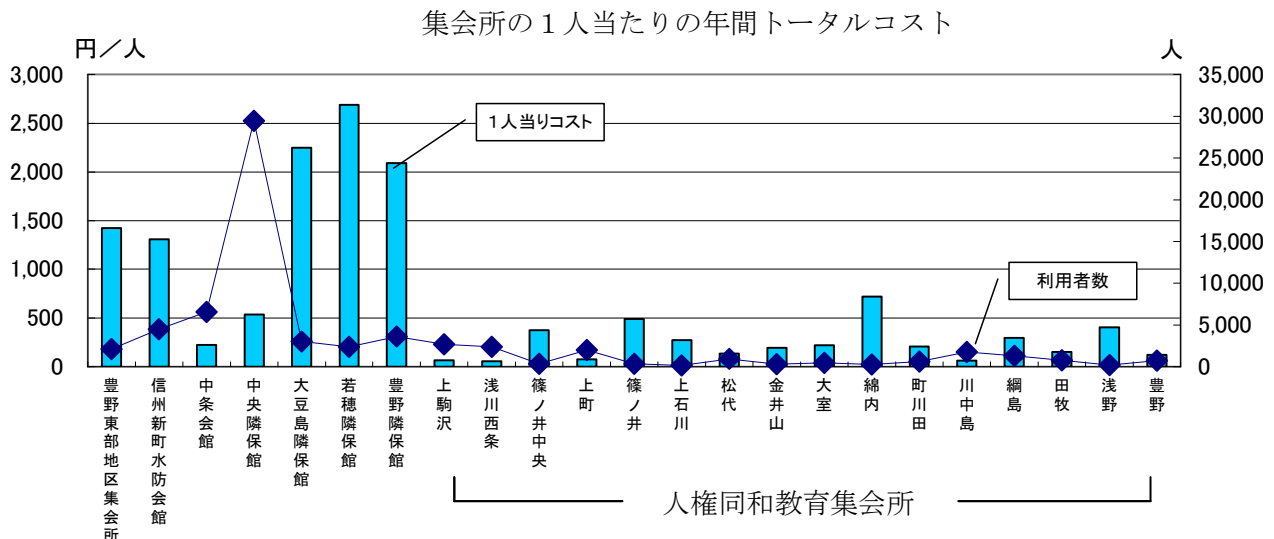
維持管理費のうち、延床面積1㎡当たりの年間光熱水費の平均は 1,315 円/㎡となっています。



③ 利用者1人当たりのコスト

平成 24 年度の集会所の利用者数は約 6.7 万人で、利用者1人当たりのコストの平均は 765 円/人となっています。

地区集会所は中条会館が 222 円/人と低くなっていますが、豊野東部地区集会所、信州新町水防会館は約 1,300 円/人となっています。中央隣保館は 535 円/人ですが、大豆島隣保館、若穂隣保館、豊野隣保館は 2,500 円/人前後となっています。人権同和教育集会所は、浅川人権同和教育集会所が 55 円/人と最も低く、綿内人権同和教育集会所が 719 円/人と最も高くなっています。



第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

(5) まとめ

地区集会所3施設のうち、中条会館が築30年以上経過し、耐震未対応となっています。

また、隣保館・人権同和教育集会所20施設のうち、約8割が築30年以上経過しています。

集会所にかかる年間トータルコストは約5,100万円で、年間利用者数は6.7万人、利用者1人当たりのコストの平均は765円となっています。

稼働率が3割以上の施設は7施設で、平均稼働率は21.6%となっています。

本市には公民館や市民文化・コンベンション施設など、集会機能を持った施設が多数あり、類似都市と比較してもその保有量は多くなっています。地区集会所や隣保館・人権同和教育集会所についても、施設の更新に当たっては、利用の実態を踏まえ、既存施設の相互利用や役割分担などを考慮した上、地域に対する影響を踏まえながら、適正な配置や規模について検討する必要があります。



中条会館

【市民文化・コンベンション施設】

(1) 概要

本市には、文化芸術活動やスポーツなどの総合的な向上発展や、産業発展の場と機会を提供するための施設として、市民会館や文化ホール、コンベンション施設が6館あり、延床面積は約4.3万㎡となっています。

なお、平成10年(1998年)に開催された第18回オリンピック冬季競技大会の競技会場となったビッグハット(アイスホッケーA)は若里多目的アリーナとして、メインメディアセンターは若里文化ホールとして、市内外の方に利用されています。

市民文化・コンベンション施設一覧

施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(㎡)	階層	主たる構造	ホール定員	利用者数(人)
1 若里多目的スポーツアリーナ(ビッグハット)	芹田	単独	指定	1995年3月	25,471	4.B1	RC造	8,000人 ※収容人数	396,568
2 若里市民文化ホール	芹田	複合	指定	1998年3月	6,467	4	RC造	606席	140,544
3 篠ノ井市民会館	篠ノ井	単独	指定	1967年4月	2,397	2	RC造	559席	46,311
4 松代文化ホール	松代	単独	指定	1989年7月	1,962	3	RC造	328席	22,585
5 東部文化ホール	柳原	複合	直営	2010年3月	972	1	SRC造	326席	32,790
6 勤労者女性会館しなのき	第三	単独	指定	1995年4月	5,272	4.B1	RC造	295席	59,197
合計					42,541				697,995

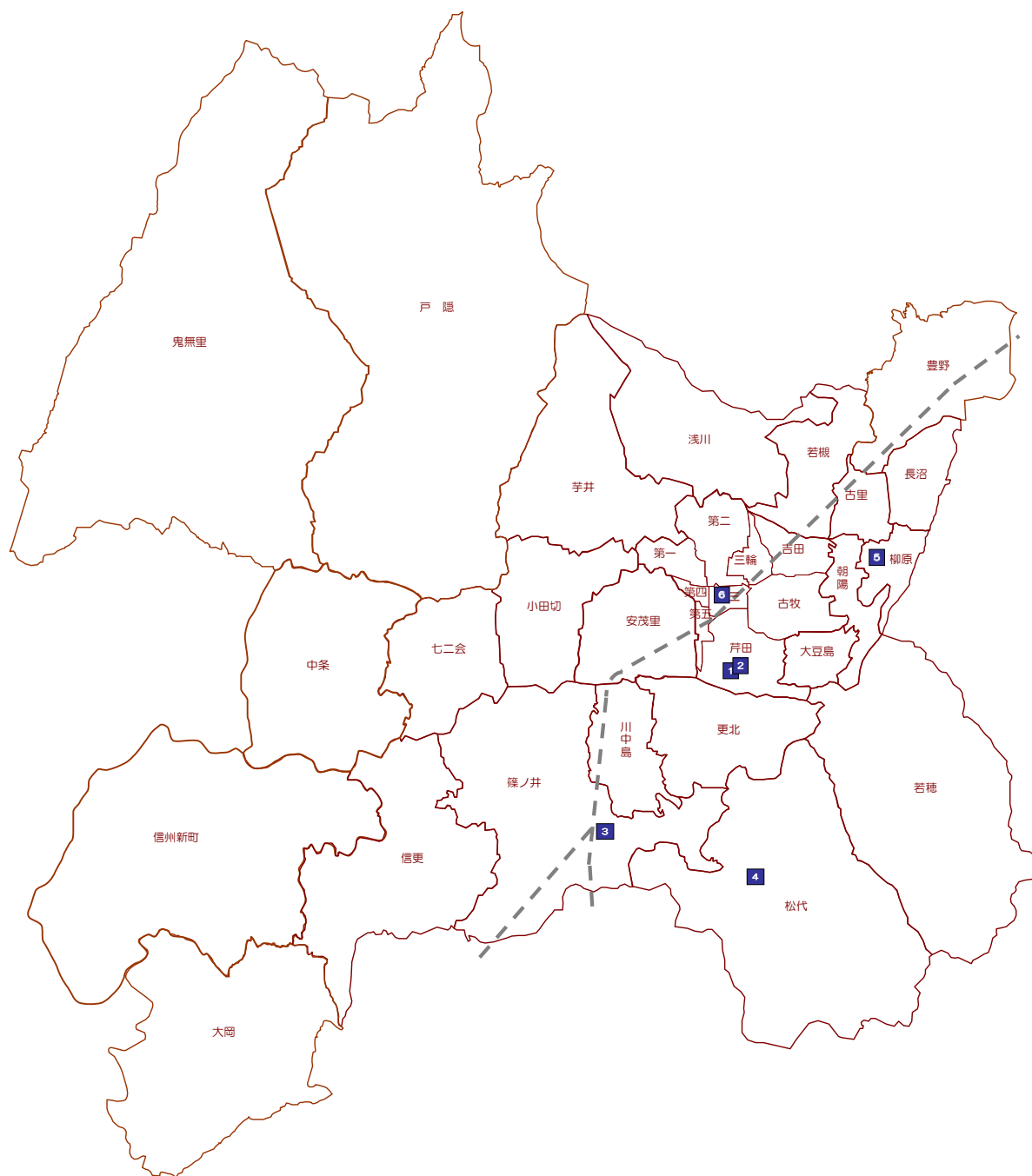


若里多目的スポーツアリーナ (ビッグハット)

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

市民文化・コンベンション施設の配置状況

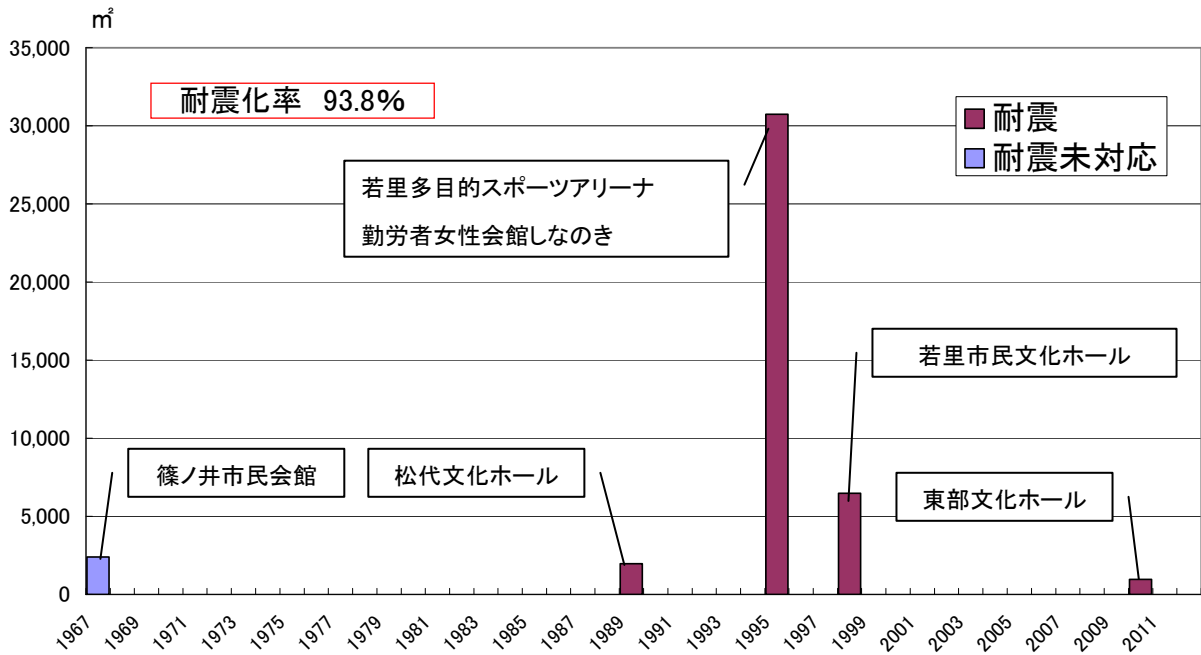


※ 図表の番号は、市民文化・コンベンション施設一覧の番号と対応しています。

(2) 建物の状況

建設年別の延床面積のグラフを見ると、1967年(昭和42年)に建設された篠ノ井市民会館が築46年が経過し、耐震未対応となっています。

市民文化・コンベンション施設の建設年別延床面積



篠ノ井市民会館

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

(3) 施設の利用状況

市民文化・コンベンション施設の平成 24 年度の利用者数は約 70 万人となっています。

各施設の利用者の推移を見ると、若里多目的スポーツアリーナ(ビッグハット)は、年間 30 万人以上の利用がある施設で、利用者は増加傾向にあります。平成 23 年度は、東日本大震災によりイベントがキャンセルになった影響で利用者が落ち込みましたが、平成 24 年度はイベント等の積極的な誘致により 35 万人以上の利用がありました。

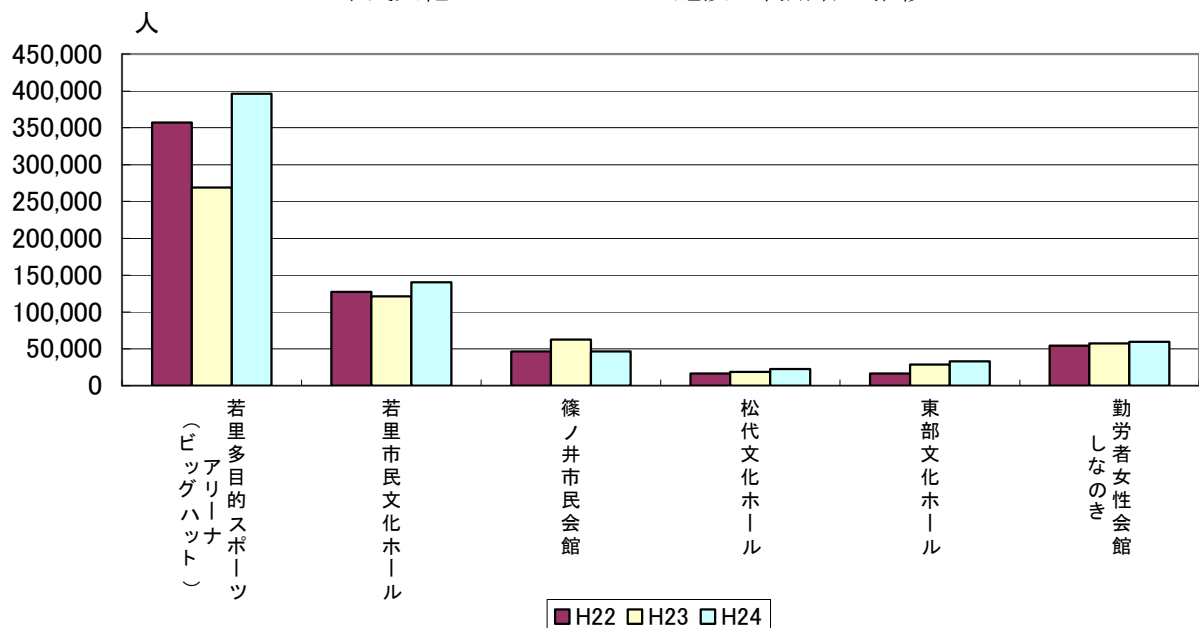
若里市民文化ホールは年間 12 万人以上の利用がある施設ですが、平成 24 年度は長野市民会館閉館の影響により、約 14 万人の利用がありました。

篠ノ井市民会館の平成 23 年度の利用者は約 6.3 万人です。これは、長野市民会館の閉館や篠ノ井イヤーイベントにより一時的に増加したもので、平成 24 年度は、約 4.6 万人の利用がありました。

松代文化ホールは長野市民会館の閉館と、指定管理者の自主事業の成果により、利用者は増加傾向にあり、平成 24 年度は約 2.3 万人の利用がありました。

東部文化ホールは平成 22 年 4 月にオープンした施設で、利用者は年々増加し、平成 24 年度は約 3.3 万人の利用がありました。

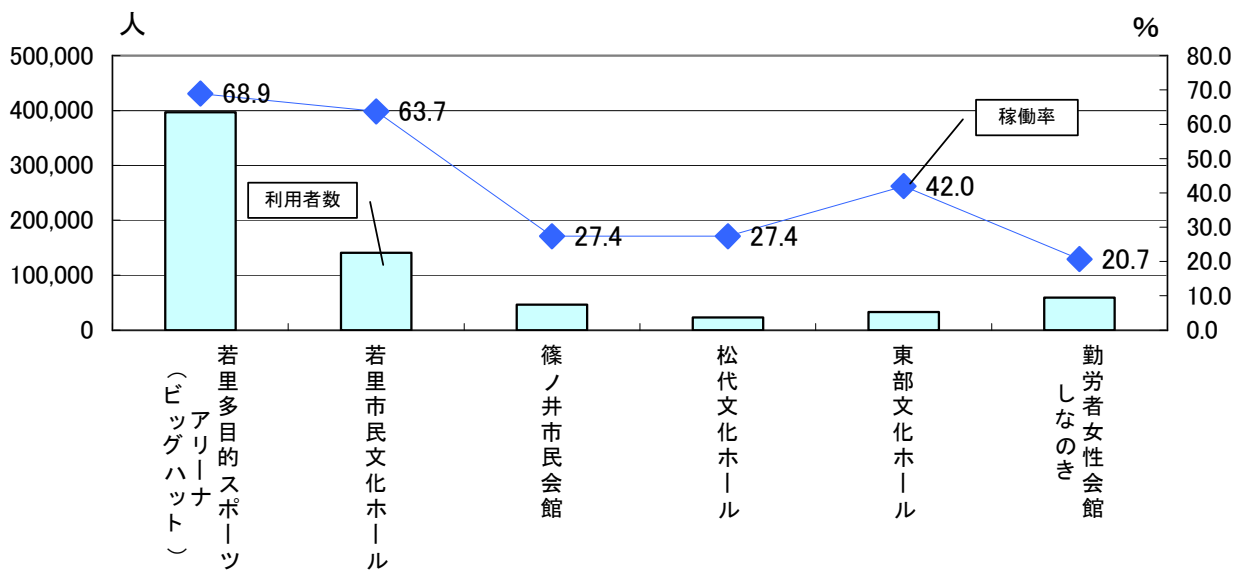
市民文化・コンベンション施設の利用者の推移



施設の稼働率を見ると、若里多目的スポーツアリーナ(ビッグハット)と若里市民文化ホールはともに 60%台で、東部文化ホールは 42%ですが、篠ノ井市民会館、松代文化ホール、勤労者女性会館しなのきは 30%未満となっています。

※ 稼働率 = 1年間に利用された件数 / 1年間に利用できる最大件数 (部屋数 × コマ数 (午前・午後などの時間帯区分) × 年間開館日数)

市民文化・コンベンション施設の利用者数と稼働率 (H24 年度)



第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

(4) コストの状況

① 概要

平成24年度の市民文化・コンベンション施設の光熱水費や建物管理委託料などの施設維持管理費は約2.6億円、事業運営費は約1億円となっています。施設維持管理費のうちの約2億円、事業運営費のうちの0.5億円は、若里多目的スポーツアリーナ(ビッグハット)と若里市民文化ホールの経費となっています。

また、建物の減価償却費を含めたトータルコストは約7.4億円で、このうち、約5.4億円が若里多目的スポーツアリーナ(ビッグハット)と若里市民文化ホールのコストとなっています。

市民文化・コンベンション施設のコスト

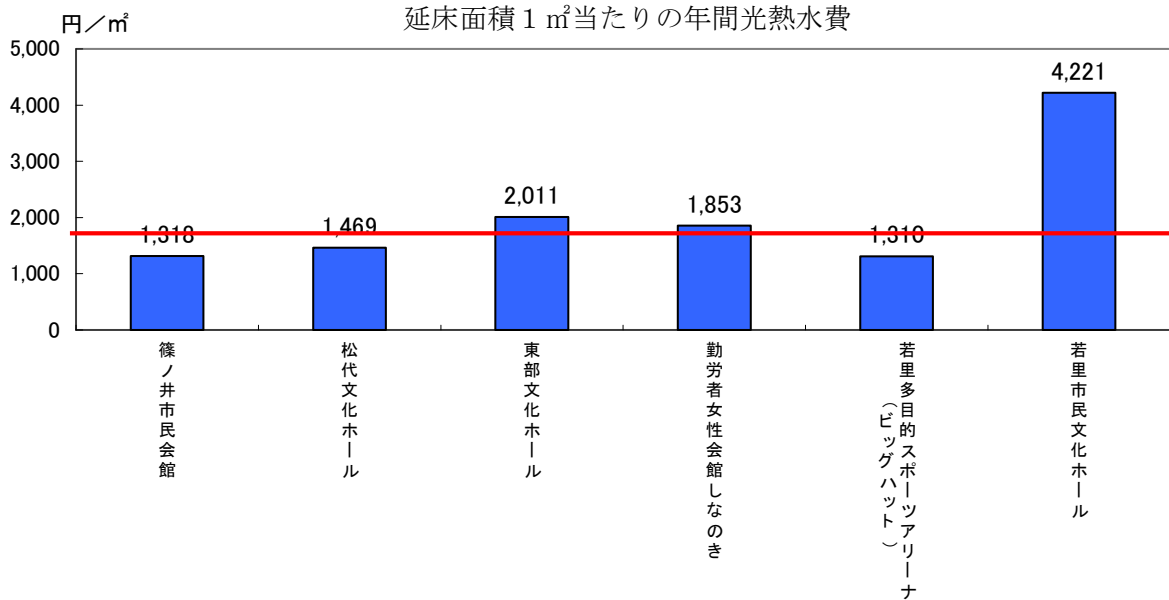
(金額単位：千円)

I 現金収支を伴うもの		施設分類名	若里多目的スポーツアリーナ (ビッグハット)	若里市民文化ホール	市民文化・コンベンション施設
		施設数	1	1	4
【コストの部】		延床面積(m ²)	25,471	6,467	10,603
施設維持管理費	修繕費		2,737	2,240	1,172
	工事請負費		0	0	2,416
	光熱水費		33,368	27,301	17,763
	建物管理委託料		73,676	60,280	30,365
	人件費(概算)		1,686	1,380	7,357
	その他の経費		0	0	1,530
	施設維持管理費 計		111,467	91,201	60,603
事業運営費	人件費(概算)		21,390	17,500	34,981
	業務委託料		0	0	0
	その他物件費等		5,711	5,185	11,163
	事業運営費 計		27,101	22,685	46,180
現金収支を伴うコスト計 ①			138,568	113,886	106,783
【収益の部】					
利用料金等	市		1,396	1,142	8,334
	指定管理者		79,336	64,911	173,965
収益計 ②			80,732	66,053	118,784
II 現金収支を伴わないもの					
【コストの部】					
減価償却費 ③			232,237	58,059	87,116
トータルコスト(①+③) ④			370,805	171,945	193,899
収支差額(④-②)			290,073	105,892	155,847

② 光熱水費の状況

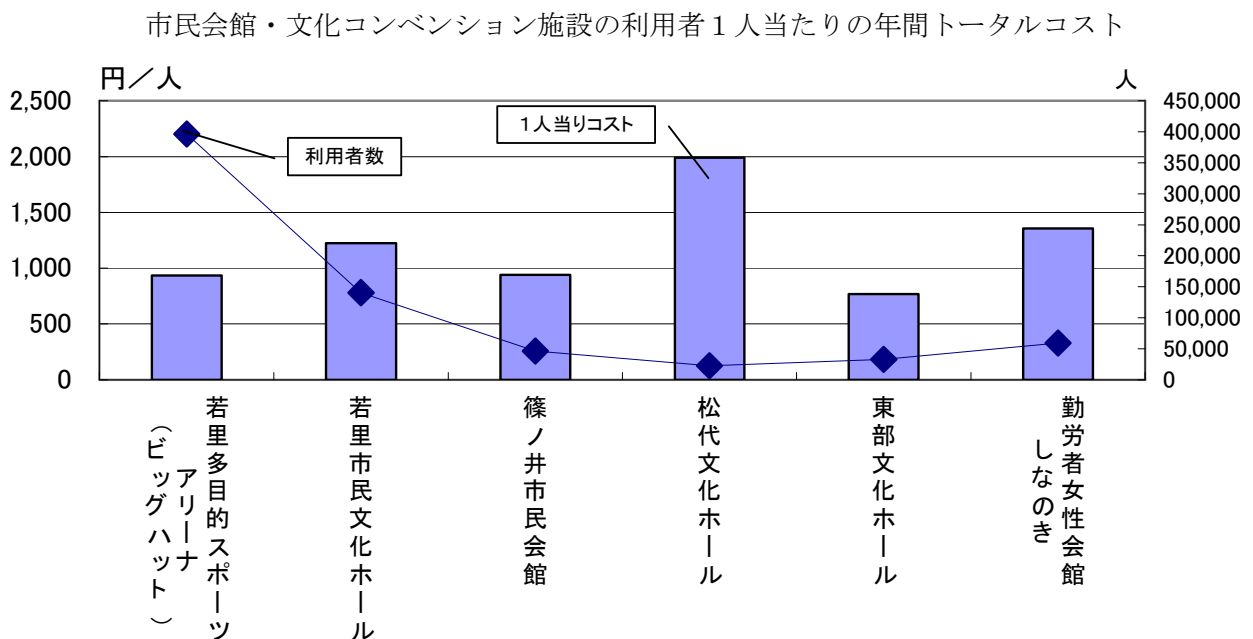
維持管理費のうち、延床面積1㎡当たりの年間光熱水費の平均は 1,844 円/㎡となっています。

このうち、若里市民文化ホールが 4,221 円/㎡と、高くなっています。



③ 利用者1人当たりのコスト

平成 24 年度の市民会館・文化コンベンション施設の利用者数の合計は約 70 万人で、利用者 1 人当たりのコストの平均は 1,055 円/人となっています。



第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

(5) まとめ

市民文化・コンベンション施設のうち、篠ノ井市民会館は築 30 年以上経過し、耐震未対応となっています。

施設にかかる年間トータルコストは約 7.4 億円で、年間利用者数は約 70 万人、利用者1人当たりのコストの平均は 1,055 円となっています。

市民文化・コンベンション施設は、市民の文化芸術活動やスポーツの振興、市民の交流などを目的に設置され、多目的に利用されている施設です。平成 24 年 6 月に施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」でも、地方自治体は、劇場、音楽堂等としての機能を十分に発揮し、地域の文化拠点として積極的に活用することが求められています。

こうした目的に加え、その規模や立地から施設の持つ役割が違うことから、文化芸術の発信拠点として自ら積極的に事業を行う施設、市民自らの利用が中心の施設、イベントなどの誘致を積極的に行う施設などと施設の位置付けを明確にした上で、施設間の連携が必要となってきます。



東部文化ホール

【図書館】

(1) 概要

本市には、市民の情報拠点として、図書、視聴覚資料その他必要な資料を収集・整理・保存し提供することにより、市民や地域が抱える課題の解決を支援するための施設として、長野図書館と南部図書館2館を設置しており、延床面積は 7,090 m²となっています。

図書館一覧

施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	登録者数(人)	貸出利用者数(人)	貸出冊数(冊)
1 長野図書館	第一	単独	直営	1985年3月	4,959	3,B1	RC造	38,843	199,239	952,593
2 南部図書館	篠ノ井	単独	直営	1979年3月	2,131	2,B1	RC造	22,718	151,034	715,536
合計					7,090			61,561	350,273	1,668,129

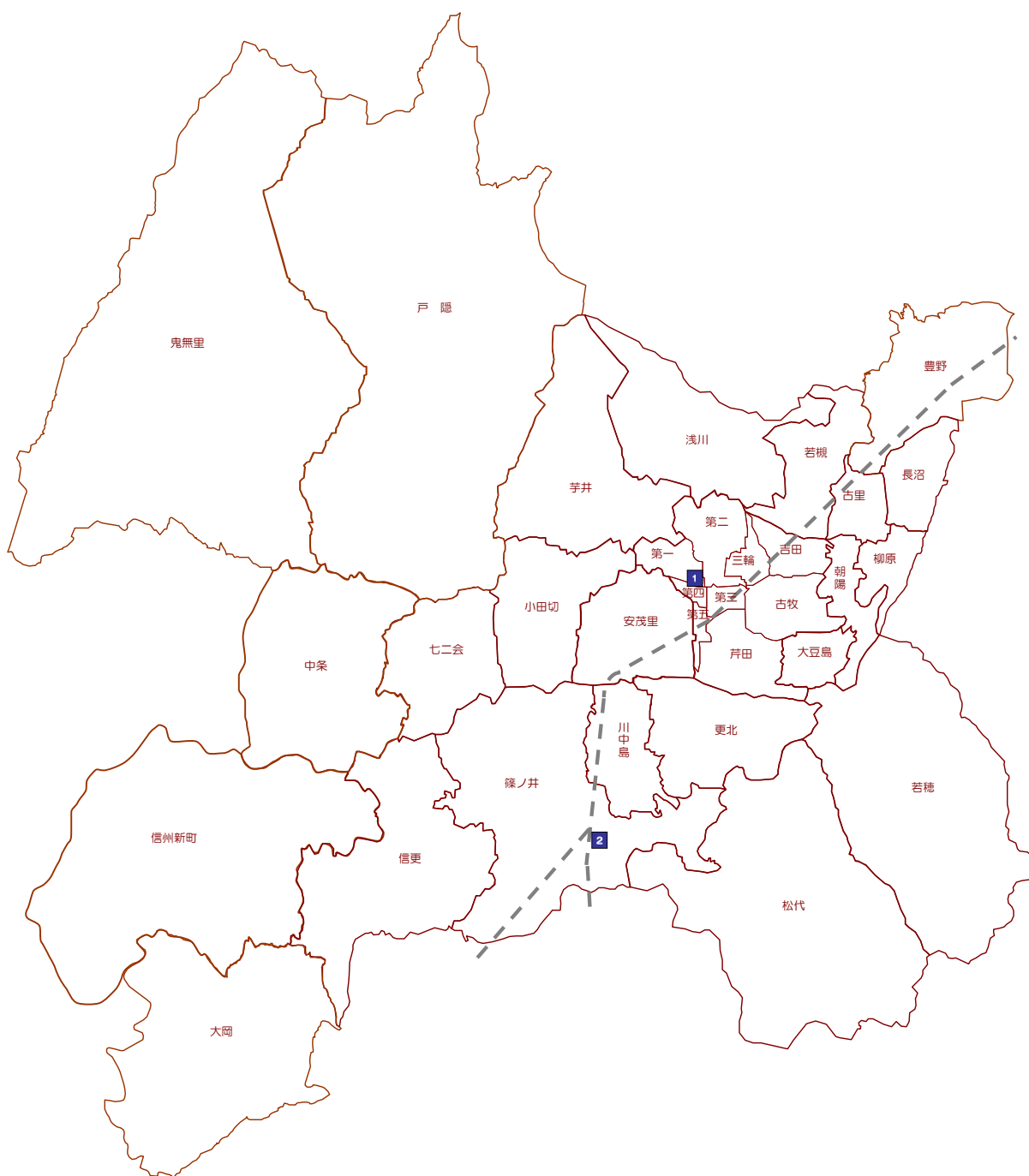


長野図書館

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

図書館の配置状況

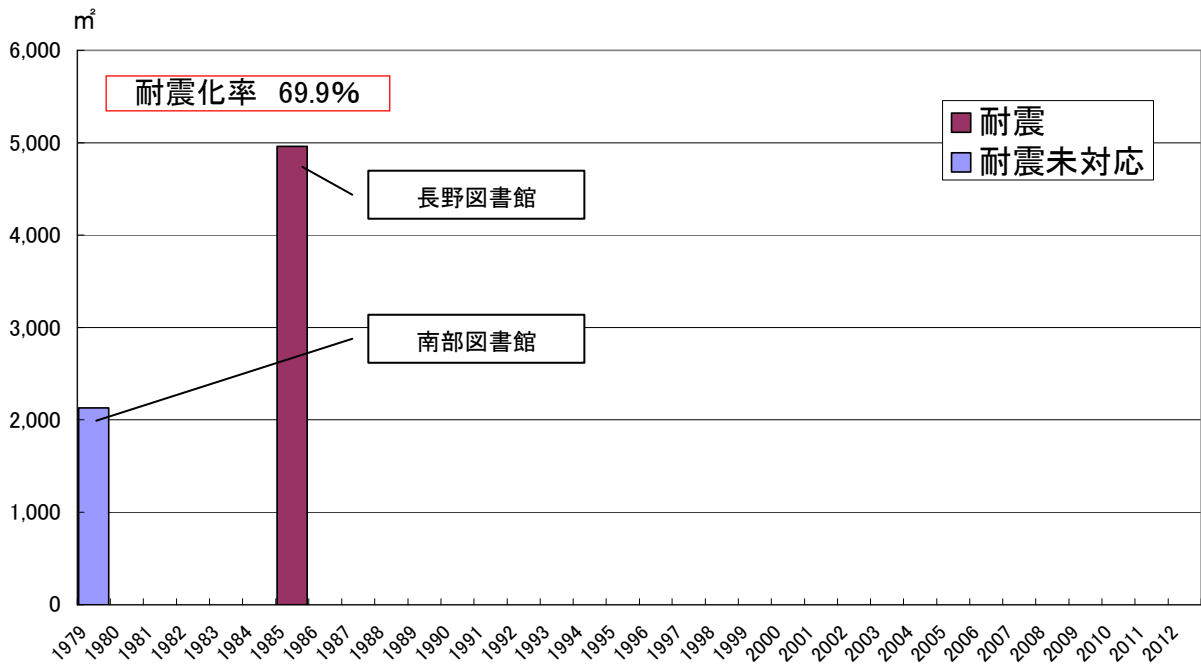


※ 図表の番号は、図書館一覧の番号と対応しています。

(2) 建物の状況

建設年別の延床面積のグラフを見ると、長野図書館は1985年(昭和60年)、南部図書館は1979年(昭和54年)に建設されており、南部図書館は築30年以上経過し、耐震未対応となっています。

図書館の建設年別延床面積



南部図書館

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

(3) 施設の利用状況

図書館の事業は、図書館資料の収集・貸出・閲覧やレファレンスサービス(※)などです。

このほかに、長野図書館では、視覚障害者に対する点字・録音図書への貸出及び対面朗読を行う障害者ライブラリーを設置しています。また、南部図書館では、移動図書館による市内巡回、貸出サービス、市立公民館 28 館への分室の設置及び老人福祉センター、児童センター、保健センターなど 37 か所の市民文庫の設置による、図書の貸出サービスを行っています。

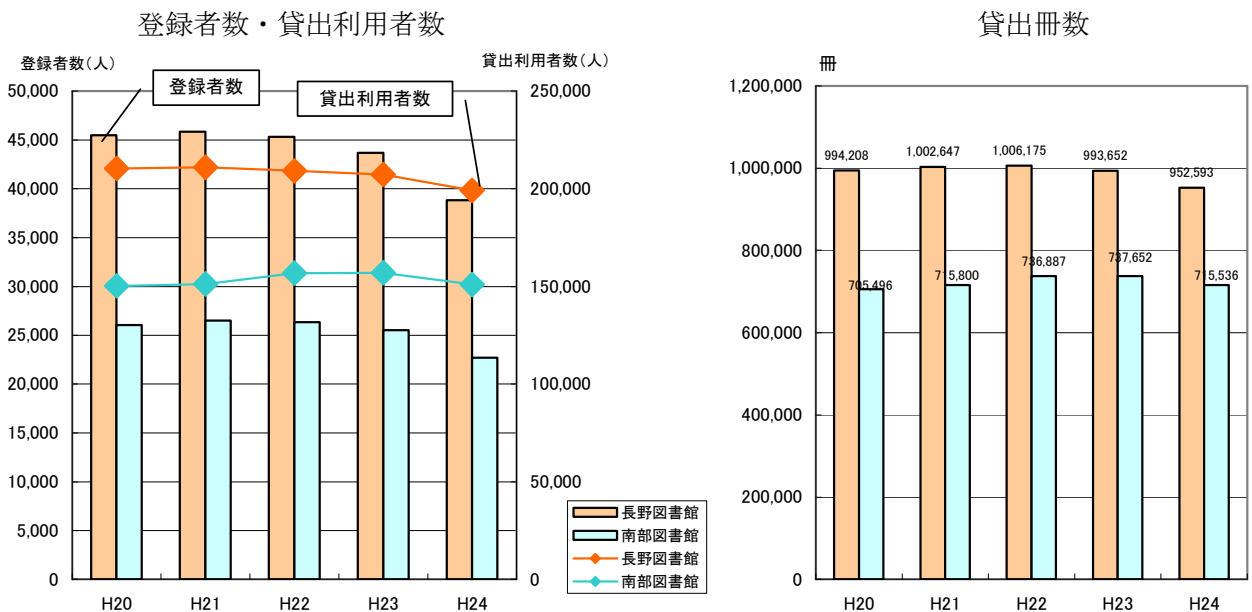
平成 24 年度の利用状況は、2館合わせて、登録者数が約 6 万人、貸出利用者が約 35 万人、貸出冊数が約 167 万冊となっています。毎年、新規登録者がある一方で、有効期間の3年を経過する際の更新手続きを行わない利用者が上回っていることで、微減となっています。

平成 24 年度のまちづくりアンケートで「市立図書館の利用について」調査したところ、「図書館は利用したことがない(36.8%)」、「ここ1年間は利用していない(31.7%)」を合計すると、アンケートに回答した市民の7割が、この1年間に市立図書館を利用していない結果となっています。

利用しない理由としては、「本は購入して読んでおり、図書館で借りる必要がないから(34.2%)」、「図書館に出掛けるのが面倒だから(30.7%)」、「本はあまり読まないから(29.5%)」といった結果となっています。さらに、年齢が若くなるにつれ、20 歳代では「インターネットを使えば用が足りてしまう」が 46.6%となっています。

※ 何らかの情報を求める利用者の質問に対して、回答となる情報そのものを提供したり、回答の含まれる情報を指示・提供すること。(日本図書館協会編「図書館用語集三訂版」)

図書館の利用状況



(4) コストの状況

① 概要

平成24年度の図書館の光熱水費や建物管理委託料などの施設維持管理費は約1.3億円で、事業運営費は約1.6億円となっています。

また、建物の減価償却費を含めたトータルコストは約3.2億円となっています。

なお、図書館は、図書館法により、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない施設となっています。

図書館のコスト

(金額単位：千円)

I 現金収支を伴うもの		施設分類名	図書館
		施設数	2
【コストの部】		延床面積(m ²)	7,090
施設維持管理費	修繕費		1,009
	工事請負費		249
	光熱水費		13,453
	建物管理委託料		8,564
	人件費(概算)		92,500
	その他の経費		19,144
	施設維持管理費 計		134,919
事業運営費	人件費(概算)		91,100
	業務委託料		2,441
	その他物件費等		67,658
	事業運営費 計		161,199
現金収支を伴うコスト計 ①			296,118
【収益の部】			
利用料金等	市		504
	指定管理者		0
収益計 ②			504
II 現金収支を伴わないもの			
【コストの部】			
減価償却費 ③			23,479
トータルコスト(①+③) ④			319,597
収支差額(④-②)			319,093

※ 収入は主に、コピー代、利用券の再発行手数料等です。

② 利用者1人当たりのコスト

平成 24 年度の図書館の貸出利用者数は約 35 万人で、1人当たりのコストは 912 円となっています。

(5) まとめ

図書館2館のうち、南部図書館は築 30 年以上経過し、耐震未対応となっています。また、貸出利用者1人当たりのコストは 912 円となっています。

図書館は、生涯学習活動等における情報拠点として、必要な施設となっています。

その一方で、平成 24 年度のまちづくりアンケート結果からは、インターネットの普及により、利用率の向上につなげることが難しい結果となっています。

しかしながら、インターネットだけでは必要な情報を得られないことも多く、市民や地域が抱える課題の解決を支援する施設として、レファレンスサービスの充実が求められています。

また、「第二次 長野市子ども読書活動推進計画」の中では、主体的に読書に親しむ習慣を身に付ける環境づくりの拠点の一つとして市立図書館が位置づけられています。

住民自治協議会などの地域活動に対する情報提供や、子どもたちに対して、直接本に接する機会と場を設けるといった、市の施策と関連付けた事業に重点をおきながら、利便性の確保や電子書籍への対応など、利用者ニーズにも対応した効果的・効率的な運営が望まれます。

【博物館】

(1) 概要

本市には、自然科学及び人文科学等に関する資料を収集・保管・展示して、市民に利用していただくとともに、その教養、調査研究、レクリエーションの提供の場、また、これらの資料に関する調査研究を行うための施設として、博物館 11 館と、それらの資料を保管するための収蔵庫3館を設置しており、延床面積は 19,559 m²となっています。

なお、収蔵庫3館は非公開の施設となっています。

博物館一覧

施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	利用者数(人)
1 長野市立博物館	更北	複合	直営	1981年5月	7,258	2.B1	RC造	38,965
2 ちよつ蔵おいらい館	第二	単独	直営	1996年3月	394	2	W造	8,205
3 戸隠地質化石博物館	戸隠	単独	直営	1983年4月	2,615	3	RC造	8,885
4 鬼無里ふるさと資料館	鬼無里	単独	直営	1985年11月	1,542	2	RC造	3,691
5 大岡歴史民俗資料館	大岡	単独	直営	1979年6月	338	2	RC造	20
6 中条歴史民俗資料館	中条	複合	直営	1980年1月	416	2	SRC造	144
7 信州新町博物館	信州新町	単独	直営	1982年4月	2,652	2	RC造	10,849
8 ミュゼ蔵	信州新町	複合	直営	1996年10月	157	2	W造	4,162
9 豊野資料収蔵室	豊野	単独	直営	1963年4月	432	1	RC造	0
10 信級文化財収蔵庫	信州新町	複合	直営	1968年10月	500	1	S造	0
11 日原文化財収蔵庫	信州新町	複合	直営	1946年7月	584	2	W造	0
12 真田宝物館	松代	単独	直営	1969年5月	1,896	2	RC造	57,347
13 象山記念館	松代	単独	直営	1967年4月	524	2	RC造	8,853
14 大室古墳館	松代	単独	直営	2002年7月	252	1	W造	2,984
合計					19,559			144,105

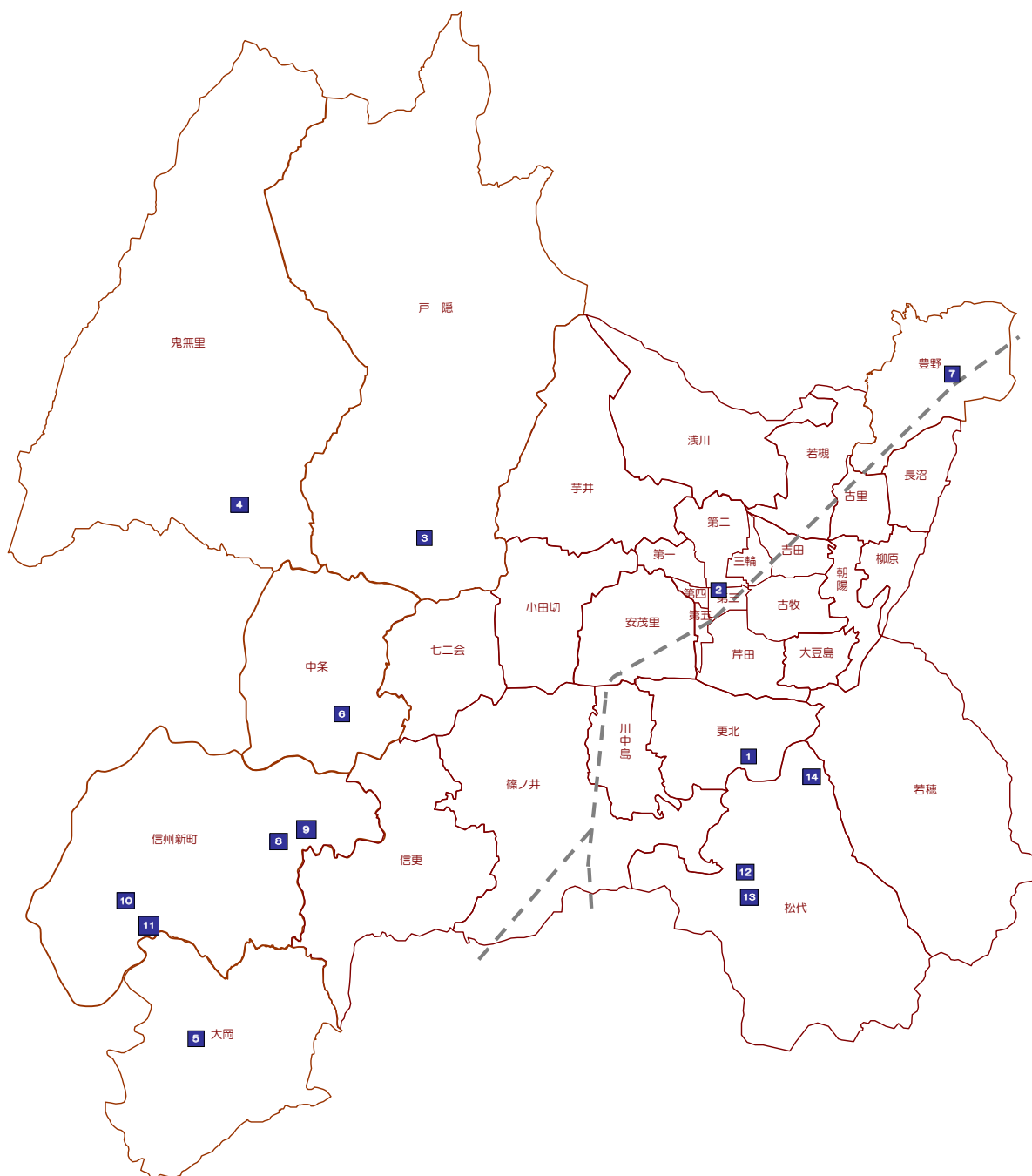


長野市立博物館

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

博物館の配置状況

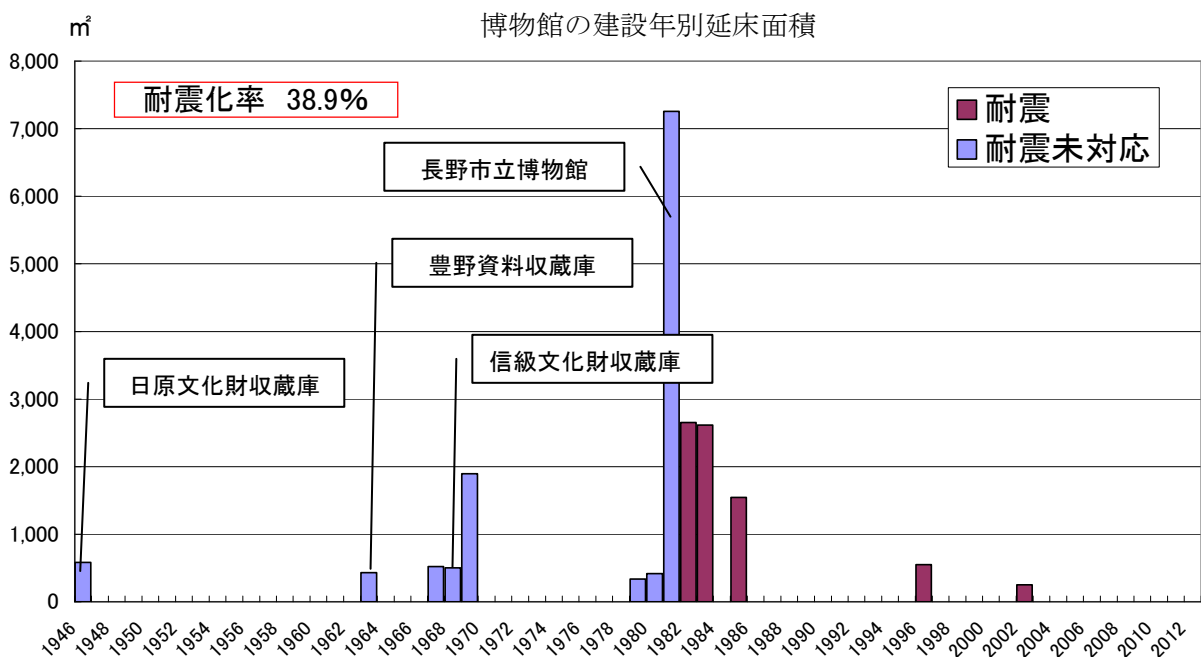


※ 図表の番号は、博物館一覧の番号と対応しています。

(2) 建物の状況

建設年別の延床面積のグラフを見ると、築30年以上経過した建物が74.6%を占め、施設の老朽化が進んでいます。最も古い建物は、1946年(昭和21年)の日原文化財収蔵庫で、築67年が経過しています。なお、戸隠地質化石博物館、信級文化財収蔵庫、日原文化財収蔵庫は、廃校となった小学校の校舎を転用した施設です。

長野市立博物館などが耐震未対応であることから、耐震化率は38.9%となっています。耐震未対応の施設のうち、豊野資料収蔵室、信級文化財収蔵庫、日原文化財収蔵庫は、非公開の施設となっています。



戸隠地質化石博物館

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

(3) 施設の利用状況

博物館 14 施設のうち、一般に公開している施設は 11 施設で、平成 24 年度の利用者数は約 144,000 人となっています。

各施設の利用者数を見ると、真田宝物館の平成 24 年度の利用者数は 57,347 人です。平成 21 年はNHK大河ドラマ「天地人」により約 71,000 人の利用がありましたが、平成 22 年度以降、東日本大震災の影響などにより、利用者が減少傾向にあります。

長野市立博物館の平成 24 年度の利用者数は 38,965 人で、年々増加傾向にあります。

信州新町博物館の平成 24 年度の利用者数は 10,849 人です。利用者に大きな変化は見られず、11,000 人前後で微増、微減を繰り返している状況です。

戸隠地質化石博物館の平成 24 年度の利用者数は 8,885 人で、平成 22 年度の約 10,000 人から微減しています。

象山記念館の平成 24 年度の利用者数は 8,853 人です。平成 23 年度は佐久間象山生誕 200 年に当たり、約 10,000 人の利用がありました。

ちよつ蔵おいらい館の平成 24 年度の利用者数は 8,205 人です。平成 21 年度は善光寺御開帳の年で約 15,000 人の利用がありましたが、概ね 8,500 人前後の利用となっています。

ミュゼ蔵の平成 24 年度の利用者数は 4,162 人で、概ね 4,000 人の利用となっています。

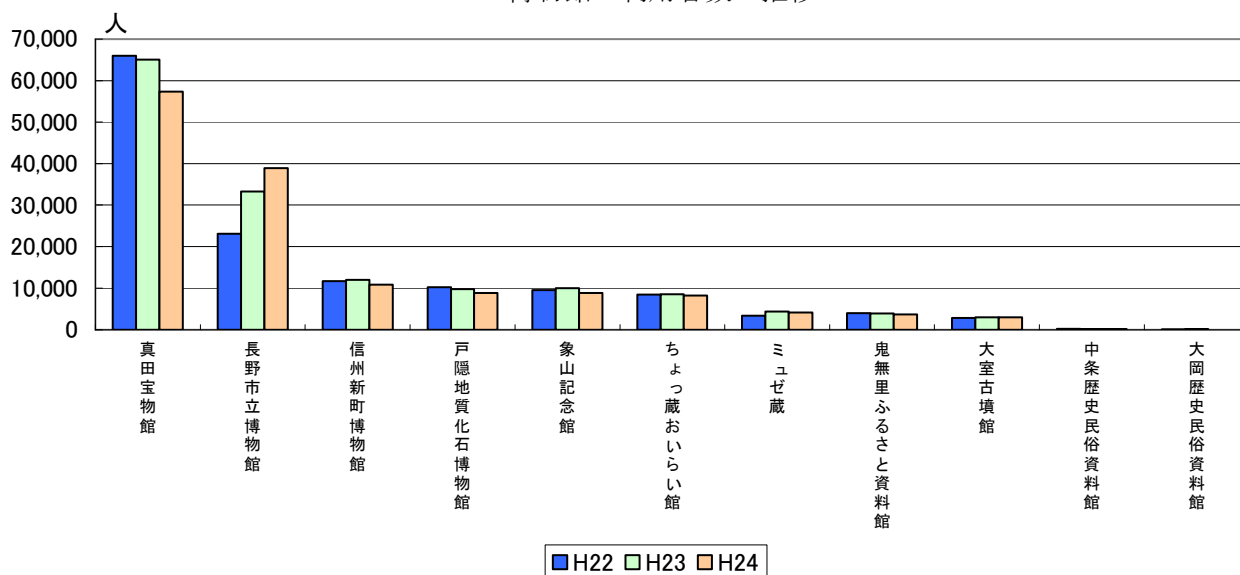
鬼無里ふるさと資料館の平成 24 年度の利用者数は 3,691 人です。平成 21 年度は鬼無里イヤーにより利用者は増加しましたが、それ以降は年々減少傾向にあります。

大室古墳館の平成 24 年度の利用者数は 2,984 人です。この施設は平成 14 年に開館し、現在、継続的に史跡整備事業による古墳修理工事等を実施しているため、積極的な宣伝活動は実施していませんが、利用者は増加傾向にあります。

中条歴史民俗資料館、大岡歴史民俗資料館の2施設は、見学希望があった場合のみ開館している施設ですが、見学希望が少なく、利用者は減少傾向にあります。

なお、豊野資料収蔵室、信級文化財収蔵庫、日原文化財収蔵庫は、非公開の施設となっています。

博物館の利用者数の推移



大岡歴史民俗資料館

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

(4) コストの状況

① 概要

平成24年度の博物館の光熱水費や建物管理委託料などの施設維持管理費は約1.3億円で、事業運営費は約1.2億円となっています。

また、建物の減価償却費を含めたトータルコストは約3.4億円となっています。

博物館のコスト

(金額単位：千円)

I 現金収支を伴うもの		施設分類名	博物館
		施設数	14
【コストの部】		延床面積(m ²)	19,559
施設維持管理費	修繕費		1,681
	工事請負費		8,658
	光熱水費		23,389
	建物管理委託料		27,200
	人件費(概算)		51,980
	その他の経費		16,791
	施設維持管理費 計		129,699
事業運営費	人件費(概算)		77,550
	業務委託料		13,177
	その他物件費等		26,753
	事業運営費 計		117,480
現金収支を伴うコスト計 ①			247,179
【収益の部】			
利用料金等	市		32,171
	指定管理者		0
収益計 ②			32,171
II 現金収支を伴わないもの			
【コストの部】			
減価償却費 ③			97,497
トータルコスト(①+③) ④			344,676
収支差額(④-②)			312,505

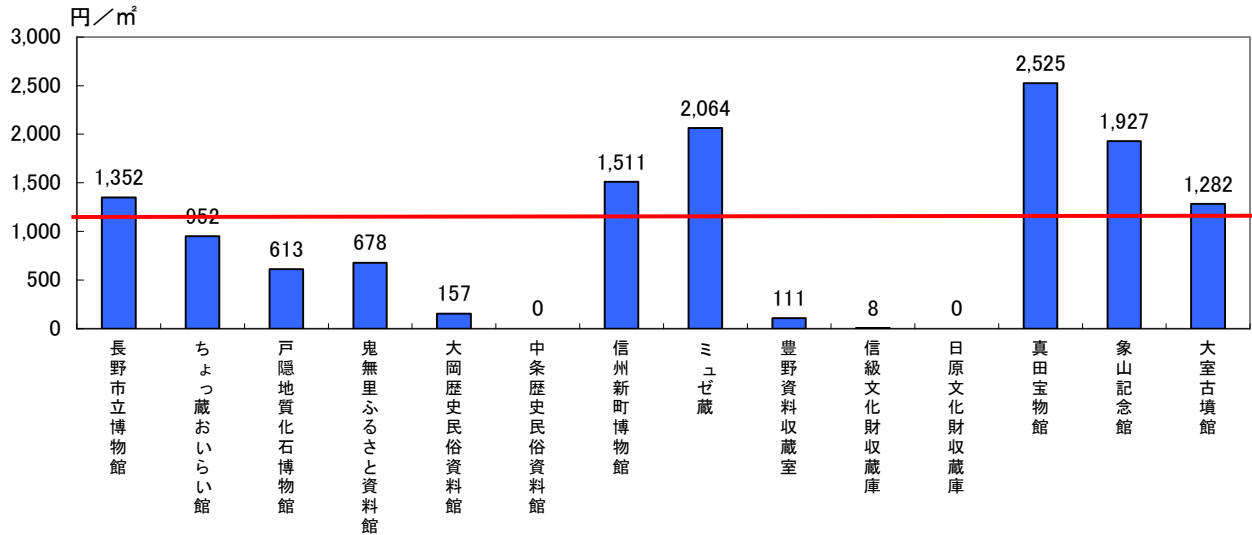
※ 収入は、長野市立博物館、真田宝物館など7施設の入館料が主なものです。

② 光熱水費の状況

維持管理費のうち、延床面積1㎡当たりの年間光熱水費の平均は 1,023 円/㎡となっています。

真田宝物館は 2,525 円/㎡と最も高くなっていますが、年間利用者も多い施設です。

延床面積 1 ㎡当たりの年間光熱水費

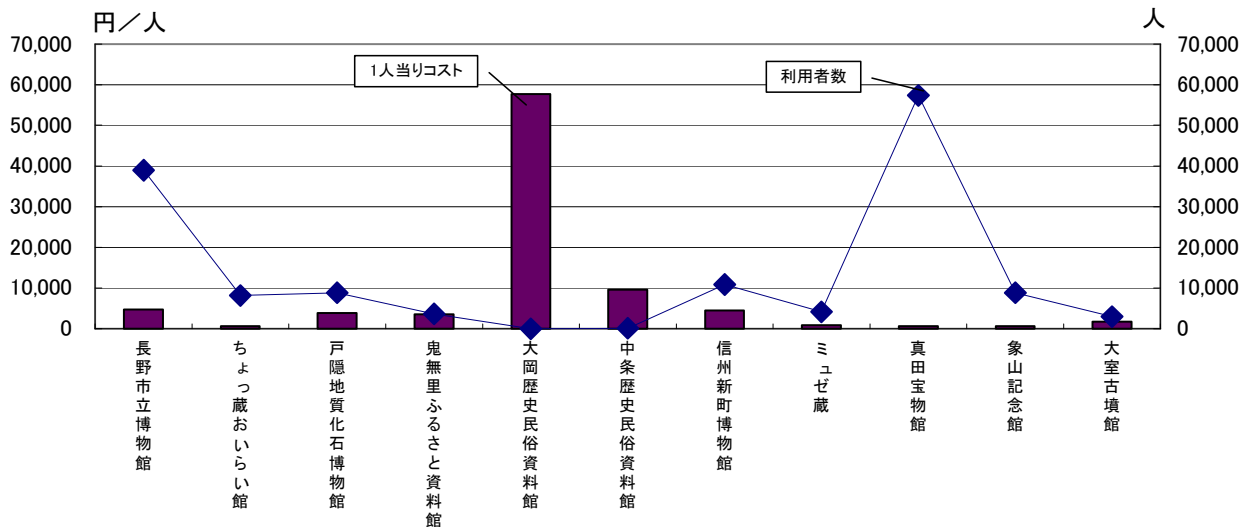


③ 利用者1人当たりのコスト

平成 24 年度の博物館の利用者数は約 14 万人で、利用者1人当たりのコストの平均は 2,392 円/人となっています。

非公開の施設を除き、利用者1人当たりのコストが最も高い施設は大岡歴史民俗資料館で、57,700 円/人となっています。

博物館の利用者1人当たりの年間トータルコスト



第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

(5) まとめ

博物館の建物の7割強が築30年以上経過し、耐震化率は4割弱にとどまっています。これは、長野市立博物館や、廃校となった小学校の校舎を転用した施設があることなどによるものです。

利用者1人当たりのコストの平均は2,392円ですが、大岡歴史民俗資料館では57,700円となっています。

博物館は、地域の歴史や自然、民俗などの資料の保存、管理、調査研究により、それらを市民に正しく伝え、郷土文化の発展、保存、伝承に寄与するとともに、地域の文化創造や市民の学習研修のきっかけとなる場として、必要な施設となっています。こうした理由から、旧町村に1施設は設置されていたため、合併前の旧市では5施設でしたが、現在14施設となっています。

こうした現状を踏まえ、現在、博物館再編基本計画の策定にあわせ、施設の適正な配置について検討を進めています。



大室古墳館

【その他の施設】

(1) 概要

生涯学習・文化施設の中には、公民館や市民文化・コンベンション施設等の他に、以下のような施設があります。

- 生涯学習センター：生涯学習及び交流の場を提供するとともに、生涯学習活動を総合的に支援する、生涯学習の中核的施設
 - 中高年齢労働者福祉センター(サンライフ長野)：
中高年齢労働者の雇用の促進や福祉の向上を図るための施設
 - 勤労青少年ホーム：勤労青少年の福祉の増進や健全な育成を図るための施設
 - 働く女性の家：女性労働者や勤労者家庭主婦等の職業生活、家庭生活への調和・向上と福祉の増進を図るための施設
 - 少年科学センター：21世紀を担う子どもたちに、最新科学とそれに関連する基礎的な科学機器を展示し、遊びの中に科学する芽を養い、いつも新鮮な驚きと楽しい雰囲気によって、潜在的興味を喚起させるための施設
 - 中条音楽堂：音楽活動及び交流の場を提供することで、地域の文化の向上につなげるための施設
 - フルネットセンター：地域情報化を推進し、市民の生活及び文化の向上並びに地域における企業活動の活性化を図るための施設
- これらの施設の延床面積は、約1.5万㎡となっています。

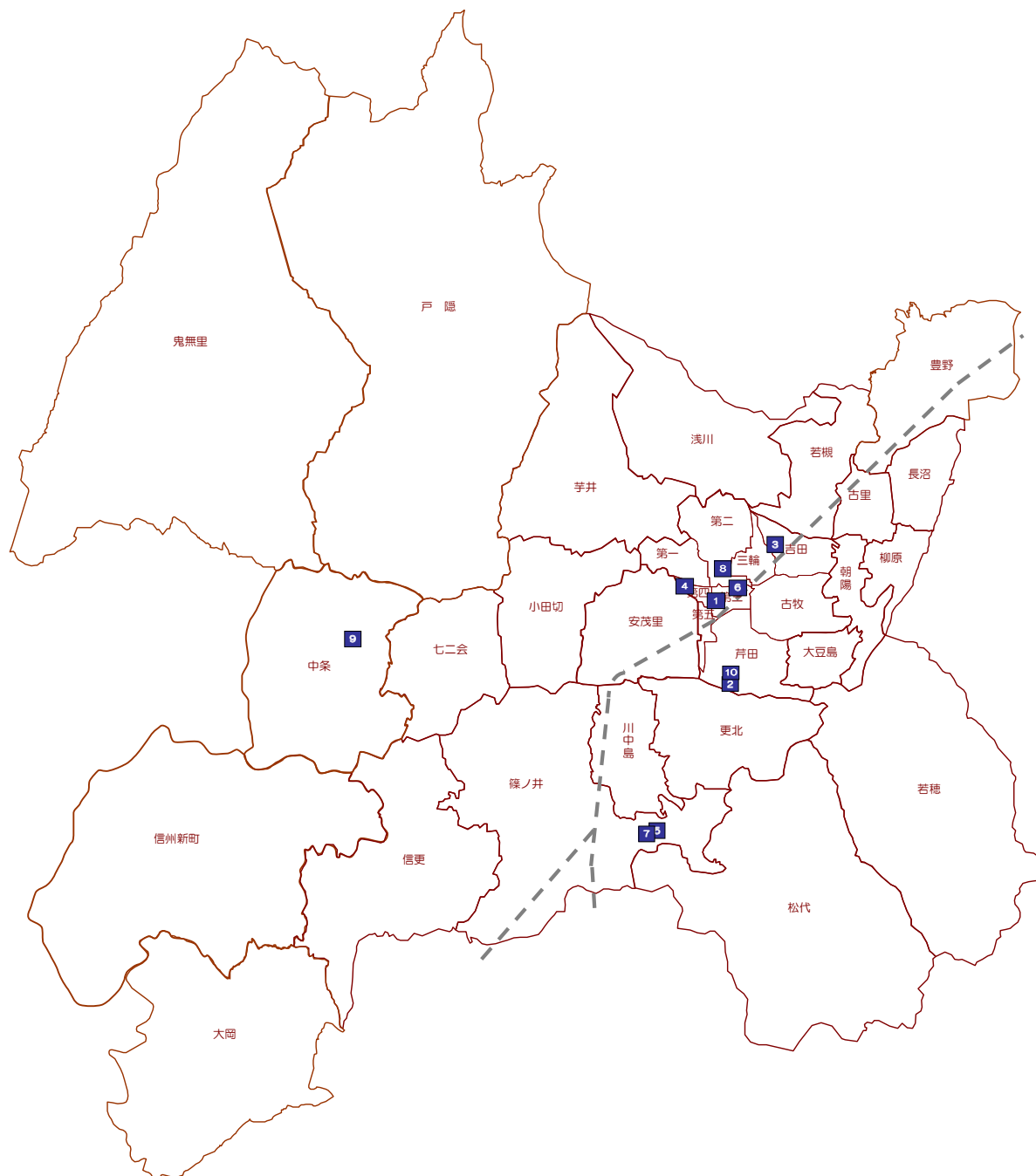
その他の施設一覧

施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(㎡)	階層	主たる構造	利用者数(人)
1 生涯学習センター	第三	複合	直営	2006年10月	3,357	4	SRC造	185,582
2 中高年齢労働者福祉センター	芹田	単独	指定	1984年8月	1,480	2	RC造	63,803
3 北部勤労青少年ホーム	吉田	単独	指定	1972年3月	936	2	RC造	26,987
4 中部勤労青少年ホーム	第四	単独	指定	1984年5月	1,077	2	S造	19,894
5 南部勤労青少年ホーム	篠ノ井	単独	指定	1981年3月	1,034	2	S造	20,333
6 柳町働く女性の家	三輪	複合	指定	1978年4月	689	3.B1	S造	32,717
7 南部働く女性の家	篠ノ井	単独	指定	1988年12月	694	1	S造	29,988
8 少年科学センター	第二	単独	指定	1985年5月	3,408	1.B1	RC造	107,838
9 中条音楽堂	中条	単独	指定	1989年1月	677	1	W造	894
10 フルネットセンター	芹田	単独	指定	1997年1月	1,975	4	S造	16,748
合計					15,328			504,784

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

その他の施設の配置状況

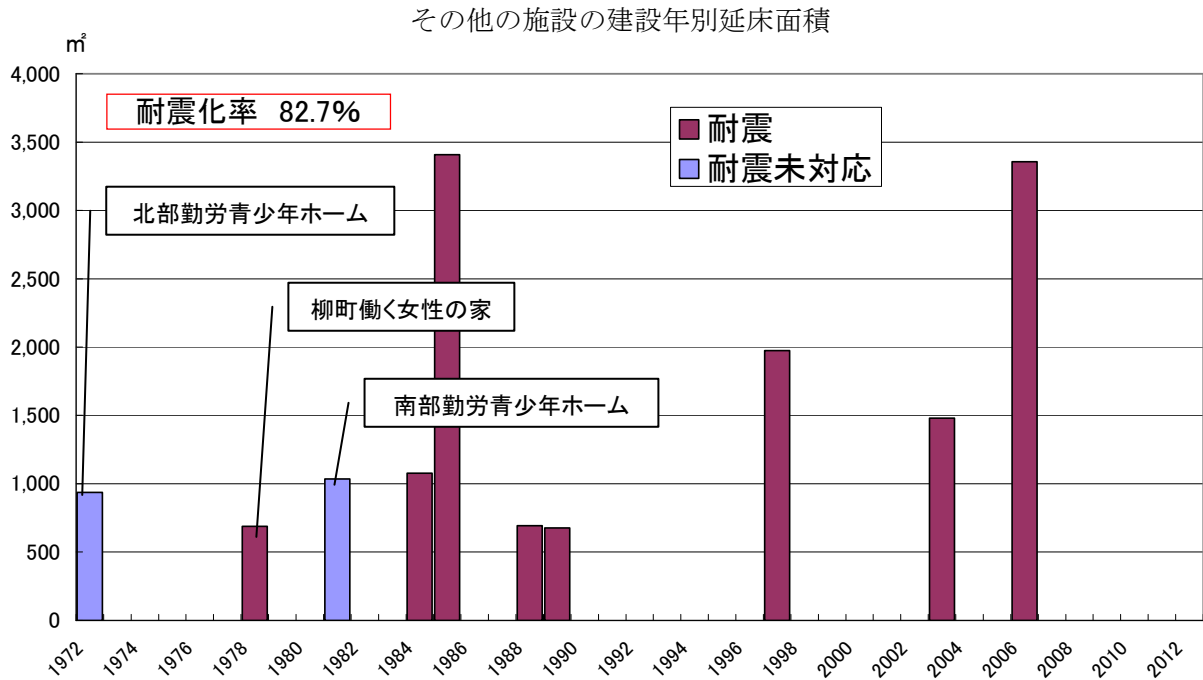


※ 図表の番号は、その他の施設一覧の番号と対応しています。

(2) 建物の状況

建築年別の延床面積のグラフを見ると、築 30 年以上経過した建物は、北部勤労青少年ホーム、南部勤労青少年ホーム及び柳町働く女性の家となっています。

また、北部勤労青少年ホーム、南部勤労青少年ホームは、耐震未対応となっています。



南部勤労青少年ホーム

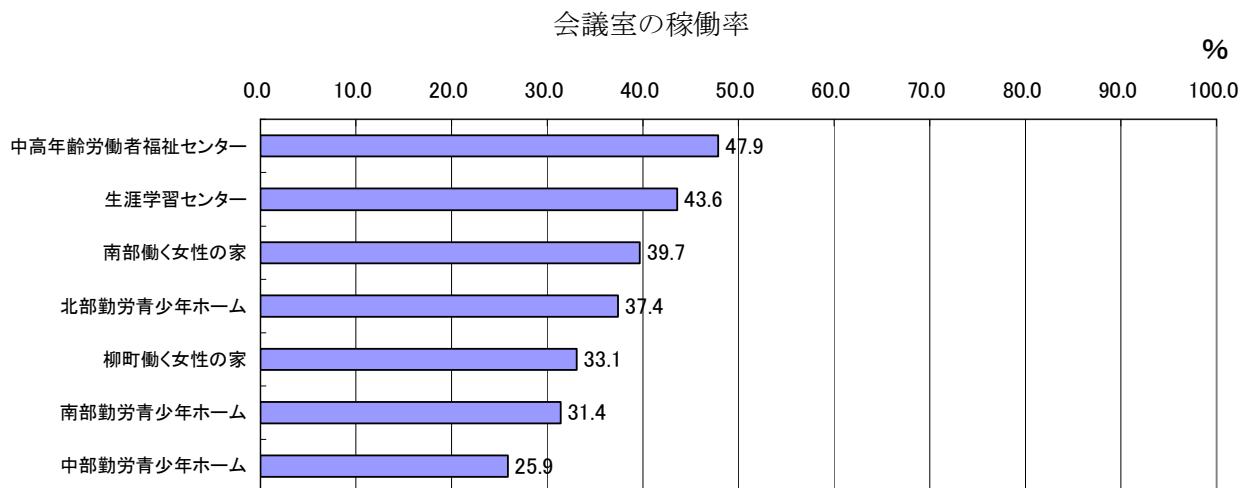
第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

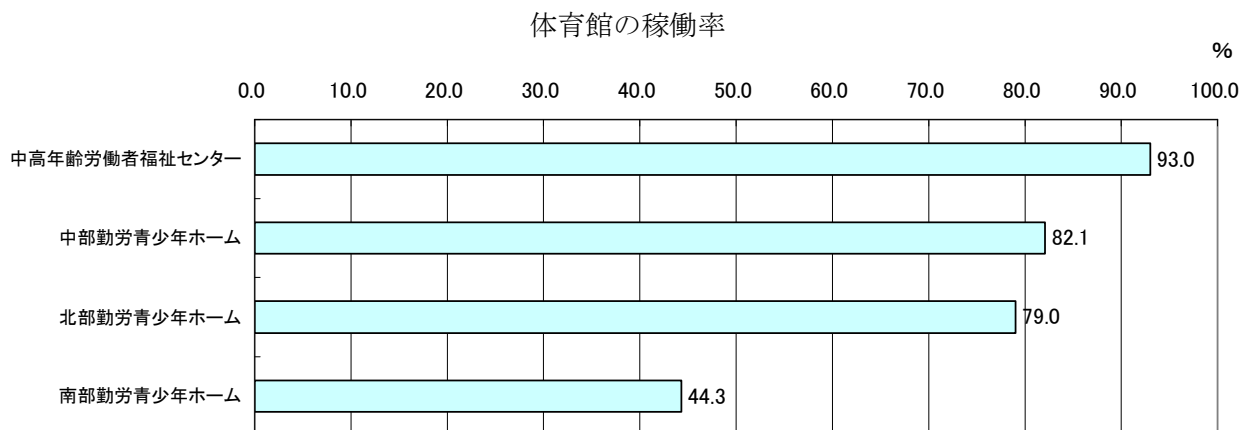
(3) 施設の利用状況

その他の施設には、会議室、体育館、料理実習室などがあり、それぞれの施設の対象となる市民に、施設の貸出や講座を開講しています。

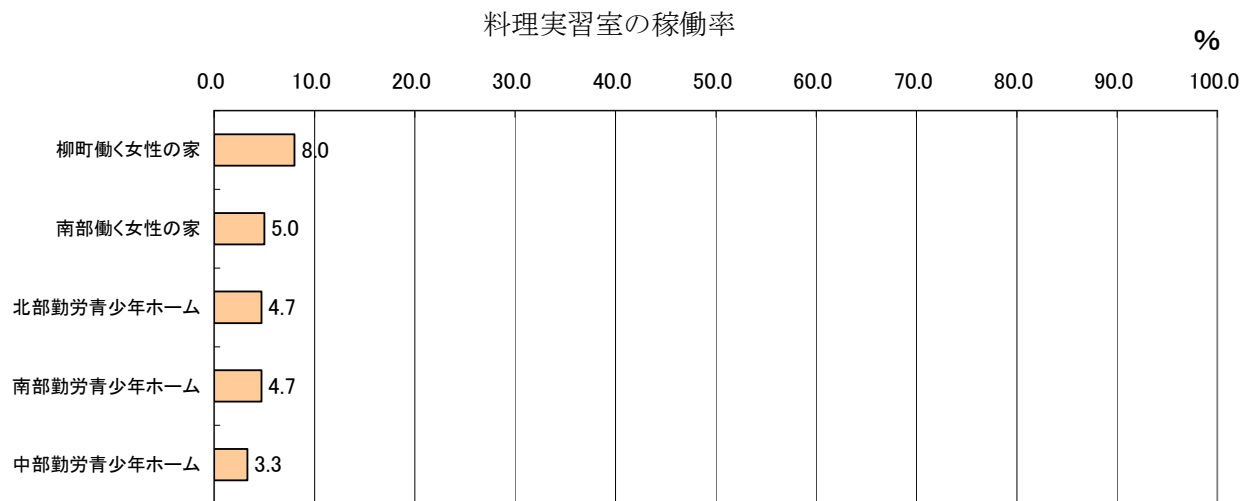
会議室は、概ね 25～50%の利用があります。労働者を対象としている施設の稼働率は30%台で、夜間の利用が多くなっています。



体育館の稼働率を見ると、床がコンクリート製であることから稼働率が最も低い南部勤労青少年ホームでも 44.3%であり、この他の3施設では、おおむね 80%以上の利用があります。



料理実習室の稼働率を見ると、すべての施設で10%未満となっています。



中条音楽堂の平成24年度の利用者は894人です。市民だけでなく、市外の方にも利用されていますが、固定利用が多い状況となっています。



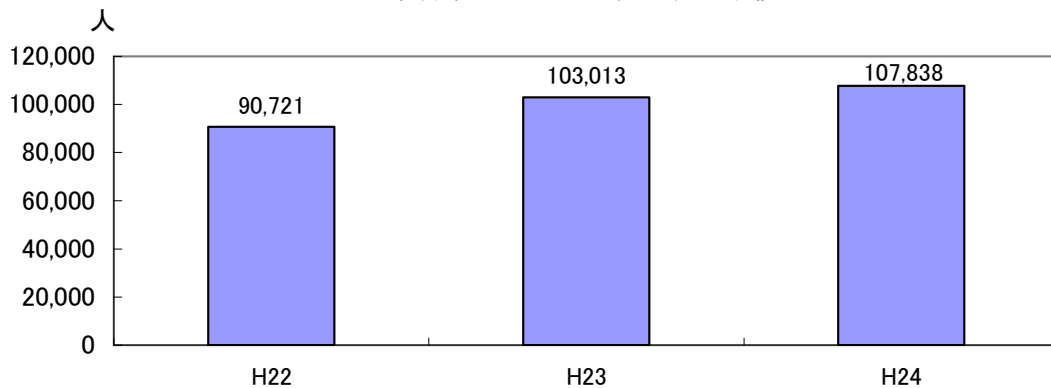
中条音楽堂

第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

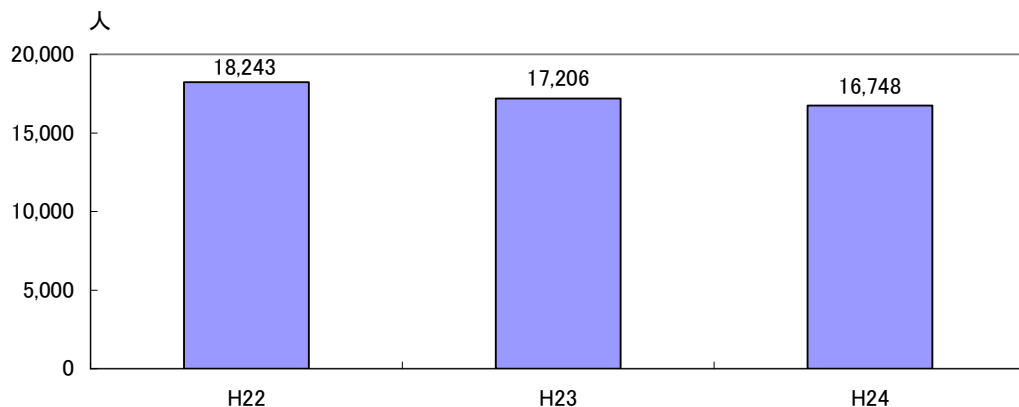
少年科学センターは、平成23年度に5年ぶりに10万人以上の利用があり、平成24年度も、体験型事業の実施によりリピーターが増え、10万人以上を維持しています。

少年科学センターの利用者の推移



フルネットセンターは、1階に主に市民が利用するパソコン教室や研修室、マルチメディア体験コーナー等の施設、2階に各種情報システムのサーバ室、3階に主にインターネットテレビ番組を制作しているスタジオや編集室があります。平成24年度の利用者は16,748人です。マルチメディア体験コーナー等で利用者が増加した部分もありますが、定期的に利用していた団体の研修室利用等が減少したため、全体の利用者は減少しています。

フルネットセンターの利用者の推移



フルネットセンター

(4) コストの状況

① 概要

平成24年度のその他の施設の光熱水費や建物管理委託料などの施設維持管理費は約1.2億円で、事業運営費は約1.7億円となっています。

また、建物の減価償却費を含めたトータルコストは約3.5億円となっています。

その他の施設のコスト

(金額単位：千円)

I 現金収支を伴うもの		施設分類名	その他の施設
		施設数	10
【コストの部】		延床面積(m ²)	15,328
施設維持管理費	修繕費		3,951
	工事請負費		3,014
	光熱水費		38,915
	建物管理委託料		27,464
	人件費(概算)		25,825
	その他の経費		25,552
	施設維持管理費 計		124,721
事業運営費	人件費(概算)		108,412
	業務委託料		4,499
	その他物件費等		52,836
	事業運営費 計		165,747
現金収支を伴うコスト計 ①			290,468
【収益の部】			
利用料金等	市		23,404
	指定管理者		48,488
収益計 ②			71,892
II 現金収支を伴わないもの			
【コストの部】			
減価償却費 ③		64,131	
トータルコスト(①+③) ④			354,599
収支差額(④-②)			282,707

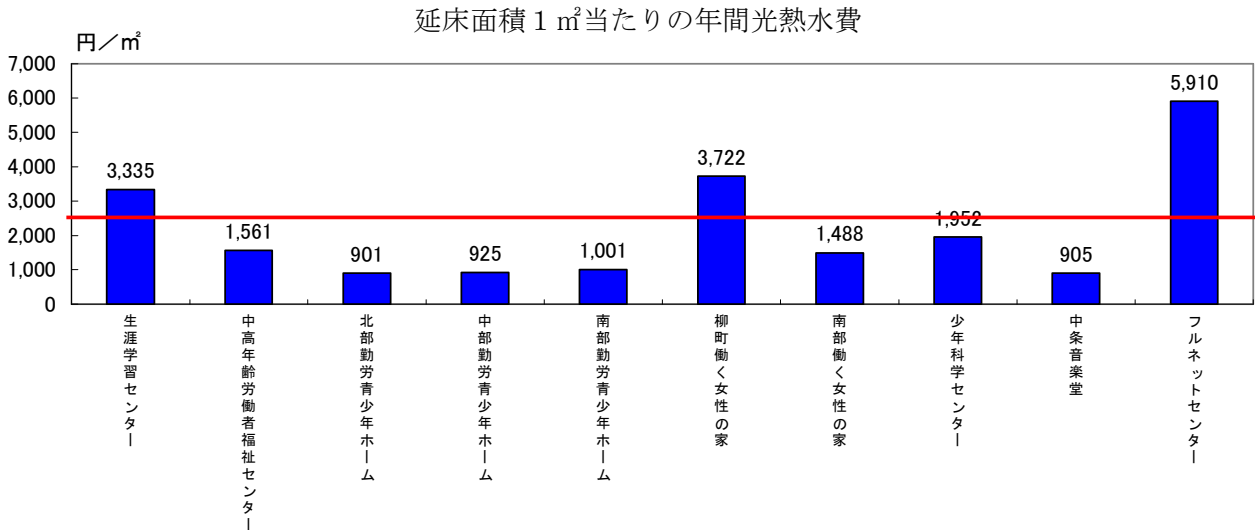
第5章 施設分類別の状況

2. 生涯学習・文化施設

② 光熱水費の状況

維持管理費のうち、延床面積1㎡当たりの年間光熱水費の平均は 2,539 円/㎡となっています。

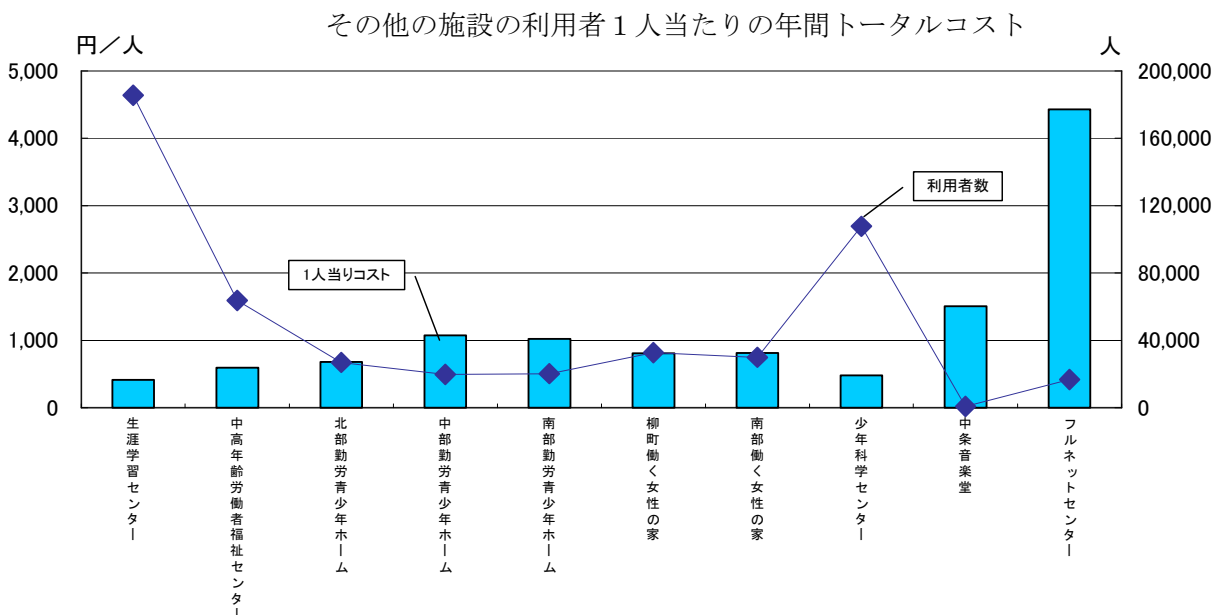
フルネットセンターは5,910円/㎡となっていますが、これは、サーバ室の維持管理に係る電気料などが大きく影響しているためです。



③ 利用者1人当たりのコスト

平成 24 年度のその他の施設の利用者数は約 50 万人で、利用者1人当たりのコストの平均は 702 円/人となっています。

フルネットセンターは、1人当たりのコストが 4,428 円/人となっていますが、これはサーバ室の空調にかかる経費が大きく影響しています。



(5) まとめ

その他の施設の建築整備年別の延床面積を見ると、築30年以上経過した建物は、北部勤労青少年ホーム、南部勤労青少年ホーム、柳町働く女性の家です。また、北部勤労青少年ホーム、南部勤労青少年ホームが耐震未対応となっています。

利用者1人当たりのコストの平均は702円となっていますが、フルネットセンターは、サーバ室を備え、その空調に大きく経費がかかっていることから、1人当たりのコストは高くなっています。

その他の施設のうち、中高年齢労働者福祉センター、勤労青少年ホーム、働く女性の家と、高齢者福祉施設に属する老人福祉センターは、対象者の違いはあるものの、福祉の向上を図るための講座の実施という点では共通しています。

労働者対象施設の利用は夜間や休日に、高齢者対象施設の利用は昼間を中心に利用していることから、施設だけでなく、内容を一元化することで、施設の効率的な運営が見込めると考えられます。

また、各施設で行われている各種講座については、同種の事業が民間でも実施されていることから、民間と行政の役割分担を考慮しながら、料金の適正化はもとより、事業内容についても検討する必要があります。

特に利用者が減少しているフルネットセンターは、情報通信環境の整備や、それに伴うニーズの変化に応じて、施設の有効活用方法を検討する必要があります。

生涯学習センターは、市民の生涯学習の拠点、また、中心市街地の活性化に寄与する施設として更なる取組が求められます。



生涯学習センター